

教育講演

「医療人のプロフェッショナリズムとは」



日本医学教育学会理事

光風園病院

木下牧子先生

医療人教育

医療人プロフェッショナリズムとは

日本医学教育学会理事
木下 牧子

2016年8月7日

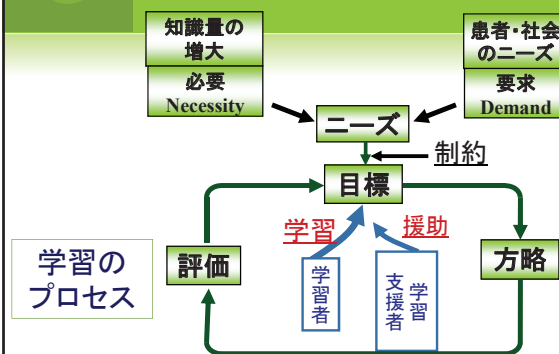
自己紹介

- もともとは膠原病、今は高齢者医療
- 自分が育った国際医療研究センターで研修医と戯れていた。
- 医学教育、特に卒後臨床研修教育にかかわるように
- その流れのなかで、薬学部の実習指導者講習のお手伝いをするように

医療人プロフェッショナリズム

私達が築く
新しい医療と社会

薬学教育 4年制から6年制へ



医療に対する社会のニーズ

“病を持つ人”が抱える
身体・心理・社会上の問題の
解決を支援する

家族、友人
地域

専門職

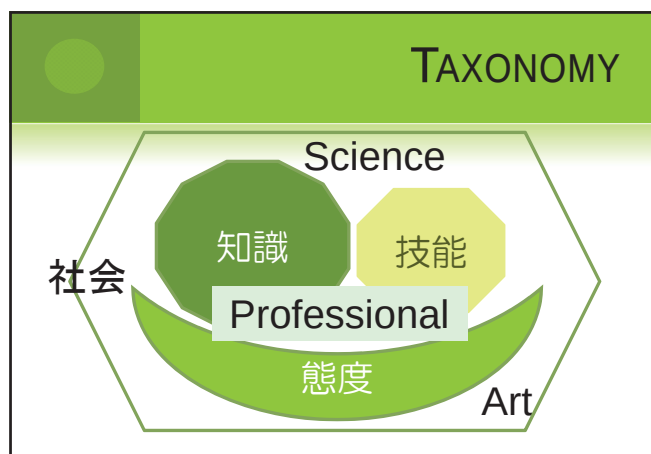
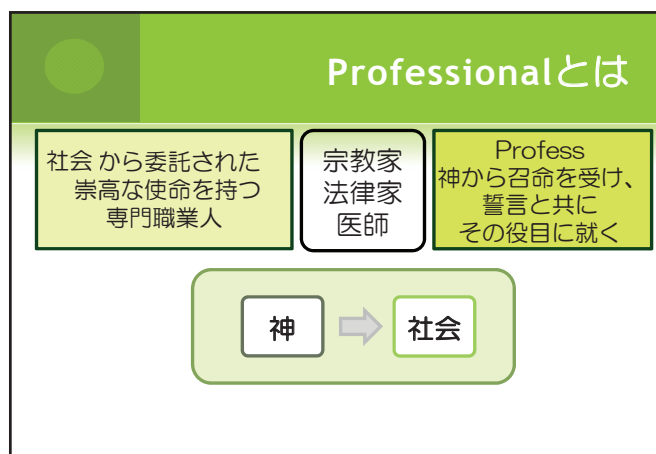
専門家

複雑で高度な知識と技能
の習得が必要な職業

社会的使命
Mission

Specialist

Professional



医療人プロフェッショナリズム

医師：
ヒポクラテスの誓い
新ミレニアム医師憲章
2002 アメリカ・欧州内科3学会

ABIM, ACP-ASIM, and European Federation of Internal Medicine
 The Lancet 2002; 359: 520-522, Ann Intern Med 2002; 136:243-46
 日本語訳 内科専門医会誌 2006: 18

新ミレニアム医師憲章 序文

プロフェッショナリズムは、**医学と社会との相互契約**の根拠をなす。

プロフェッショナリズムは、医師の利益よりも**患者の利益**に重きを置くこと、
高い水準の能力と誠実さを有し続けること、
健康に関して社会に専門的助言を与えることを要求する

・・・・・・根拠をなすものは、個々の医師および
医師全体としての**誠実さ**で決まる公衆の医師への**信頼**である。

新ミレニアム医師憲章

3つの基本的原則

- 患者の福利優先の原則
- 患者の自律性 (autonomy) に関する原則
- 社会正義 (social justice, 公正性) の原則

新ミレニアム医師憲章10の責務

1. プロフェッショナルとしての**能力**に関する責務
2. 患者に対して**正直**である責務
3. 患者情報を**守秘**する責務
4. 患者との**適切な関係**を維持する責務
5. 医療の**質**を向上させる責務
6. 医療への**アクセス**を向上させる責務
7. 有限の医療資源の**適正配置**に関する責務
8. 科学的な**知識**に関する責務
9. **利害衝突**に適切に対処して信頼を維持する責務
10. プロフェッショナル (専門職) の**責任**を果たす責務

医療人プロフェッショナル

- 利他主義
患者の利益を最優先する
- 専門職としての質の向上
高いレベルの知識と技能を身につけ、常にその向上をはかる
- 社会的責任
公平性、正義、信頼、資源の適正配置
説明責任 (Accountability)

18:50

医(薬)学と医療

学問 (Science) **正しさの追求**
E BM : Evidence Based Medicine
Gordon Guyatt (Sackett D) 1992

- 1) 問題の抽出
- 2) 文献検索
- 3) 文献吟味
- 4) 患者への適応**

研究・論文作成

医(薬)学と医療

NBM : Narrative Based Medicine
T. Greenhalgh & B. Hurwitz, 1998

すべての患者さんには物語がある。

1000人の患者さんがいれば、1000の物語がある。
これは決して 平均 ± 標準偏差では表せない。

個人的体験

90歳の認知症の母、大腿骨頸部骨折で入院
社会復帰のためのリハを始めた
入院前の母の物語を誰も聞かない

どんな生い立ち？ どんな生活？
どんな性格？ 趣味は？ 大事なものは？
好きな食べ物は？

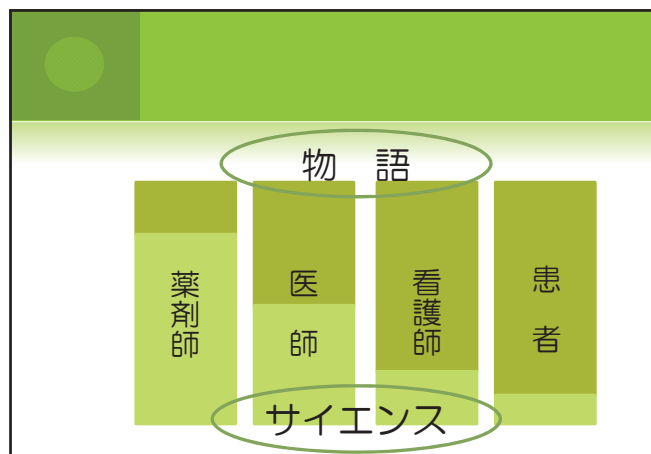
高齢者医療

- ◎ 終末期医療
- ◎ 物語：一人ひとりの人生の物語なしでは、考えられない

医(薬)学と医療

難しい！

医(薬)学	心技	医療
正しさの追求 (EBM) 全体としての確率	→	物語の追求 (NBM) 一人ひとりに寄り添う

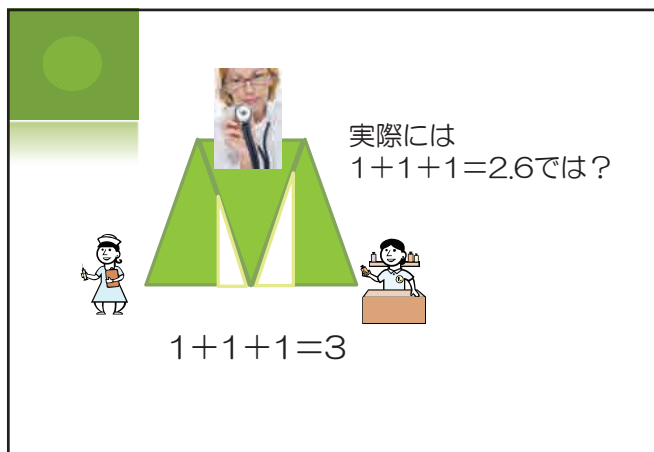
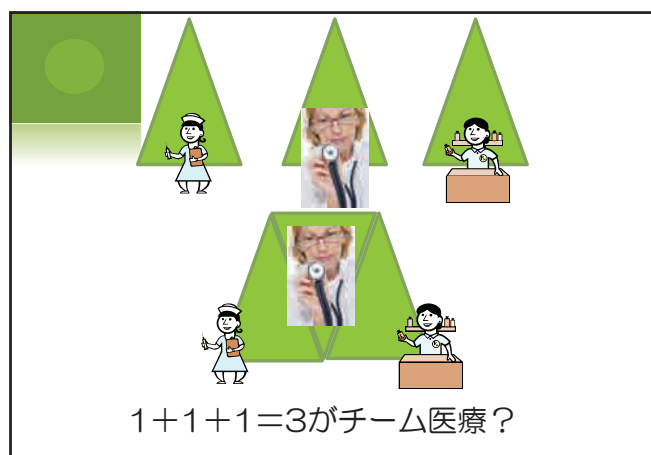


チーム医療

- ◎ それぞれの専門性
- ◎ 緊張感をもった協働
コミュニケーション能力
- ◎ 共通の基盤 志を共にする

↓

医療人プロフェッショナリズム



チーム医療

- ◎ それぞれの専門性
- ◎ 緊張感をもった協働
コミュニケーション能力
- ◎ 共通の基盤 志を共にする

医療人プロフェッショナリズム

社会のニーズ

“病を持つ人”が抱える身体・心理・社会上の問題の解決

- ◎ 社会的責任を果たす
Mission
- ◎ 一人ひとりに「医療」をとどける
Narrative：物語
- ◎ 皆で力を合わせる
チーム医療

社会のニーズ

「改めて、しっかり」
この三つを学ぶために6年制になったのでは？
↓
私達はこれをきちんと教えているのだろうか？
きちんと学んでいるのだろうか？



1610



人生の目的

- 1 自分に潜在する能力をできるだけ引き出す
- 2 他の人と好ましい人間関係をつくらることができる
- 3 他の人の人生に意味のある貢献をする

by Tony Devine et al. 1975

第三部

「薬剤師として求められる プロフェッショナリズムとは？」

セッションⅠ

「未来を支える薬剤師として何ができるか？
すべきことを考えよう！」

セッションⅡ

「真に求められるプロフェッショナリズムを
共有しよう」



第三部

薬剤師として求められる プロフェッショナリズム とは？



第三部

薬剤師として求められる プロフェッショナリズムとは？ セッション！

未来を支える薬剤師として 何ができるか？すべきこと を考えよう！ 行動を宣言しよう！



THE FUTURE OF EMPLOYMENT: HOW SUSCEPTIBLE ARE JOBS TO COMPUTERISATION?*

Carl Benedikt Frey¹ and Michael A. Osborne²

September 17, 2013

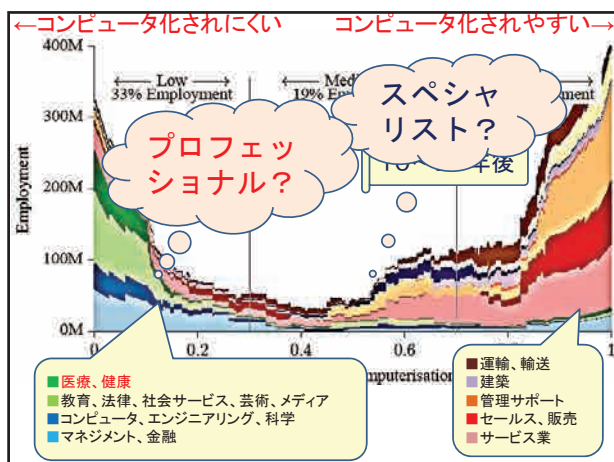
オックスフォード大学マーケティングスクール
「コンピューター（ロボット化）の影響を受けや
すい未来の仕事」に関する調査レポート

702の職種について米国の労働省のデータを用い、コ
ンピュータ化でどこまで影響を受けるかを分析した
ところ、おそらく今後10～20年という比較的早いタ
イミングで約47%の職種が自動化されるリスクが高
いという結果が出た。



東京大学医科学研究所が導入した2000万件
もの医学論文を学習した人工知能が、専門の医師
でも診断が難しい特殊な白血病を僅か10分ほど
で見抜き、治療法を変えるよう提案した結果、6
0代の女性患者の命が救われたことが分かりまし
た。

NHKニュースWEB 2016.8.5



これからの作業

まずは、司会、記録、発表、報告書担当の4役を決定

作業1：プロフェッショナリズムを振り返る

1. 寸劇の模造紙をもとに、木下先生の話の聞いて、自分たちの描いた10年後、20年後の薬剤師はプロフェッショナルであったか、プロフェッショナリズムを意識していたかを確認する。
2. 足りなかった場合には、プロダクト（模造紙）を見え消しで加筆修正する。

作業2：未来を支える薬剤師としての私たちの行動宣言

1. 10年、20年後自分たちが生き生きと職能発揮していることを描きながら、自分達が考えたプロフェッショナリズムを行動宣言にしよう！

どう行動する？どう振る舞う？

パワーポイントで作成

何のために？を意識して！
いかにして実現するか、持続するかも意識して。

私達の職能将来像を描き、**私達のプロフェッショナリズムを行動宣言**としてまとめる

○班

ために

私たちは、

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

これからの予定

1. チームでの発表
 - ①11時10分 P会場に集合
 - ②発表 5分+質疑応答5分 × 3班
表順 C ⇒ A ⇒ B
2. 総合討論(40分)
3班の行動宣言をまとめて、発表資料作成
発表者決定
2. 昼食(60分)
この間、1, 2日のプロダクトを展示(P会場)
[KJ、寸劇要点(修正後)、行動宣言]
昼食後に各Sのプロダクトを確認し、総合討論準備

セッションII「真に求められるプロフェッショナリズムを共有しよう」→13時20分 S会場に集合

セッションII

「真に求められるプロフェッショナリズムを共有しよう」

自分の行動宣言と行動計画をたてよう！

1. もう一度、自分に戻って、自分の行動宣言を立て、行動計画をたてよう。(A4用紙1枚)

- ・まずは、**自分の行動宣言**をもう一度言葉にしよう！
- ・**具体的な行動計画**を立てよう！
- ・グループの仲間に**行動計画を披露**！

注意：行動宣言と行動計画の内容は、それぞれ、このセッションの報告担当者にメールで送ってください。名前は不用です。報告書担当者は、報告書の後ろに全員分の行動宣言、行動計画をつけて、事務局に送ってください。

2. コーヒーブレイク P会場前

第四部「総合討論」 14:30 3P会場集合



I A班ー1

【議論の経緯】

まず、第二部の寸劇で表現した場面は“スペシャリスト”ではなく“プロフェッショナル”であったかどうかについて議論した。私たちは『ケモカー』という最新型の化学療法用車を考案しており、自宅で化学療法を受けたいという潜在的ニーズに応えていることに加え、機械化できる部分は機械化し、人間にしかできない部分を私たち薬剤師が担っているという点で“プロフェッショナル”であったと結論付けた。次に、寸劇で自分たちが表現しきれなかった部分を補足し、自分たちが考える“プロフェッショナルリズム”とは何かを文字に起こした。20年後の将来、薬剤師業務はかなりの機械化が進むと考え、薬剤師はどのようなことが出来るだろうということを漠然と考えていたが、議論が進むにつれ機械では絶対にできなくて人間だからこそできる業務こそが私たちの考える“プロフェッショナルリズム”なのではないかという考えに至った。そしてそれが『心』の部分である。

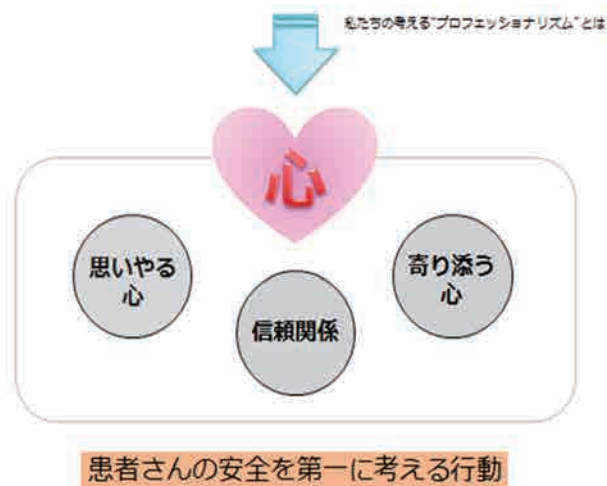
寸劇のテーマ：高齢化により在宅が必要になったら・・・

タイトル：「在宅ケモに**ケモカー**で向かう薬剤師」

劇の要点：1. 外来ケモが在宅でできる
2. 薬剤師が採血、投与、検査をすることができる
3. レジメン内なら薬剤師が緊急時の処置可能
4. 患者さんが家で安心して治療を受けられる

以下、寸劇時より補足した内容

- 薬剤師が副作用に気づく
- ケモ以外の時も患者さんと接する機会を作る
- 患者さんの情報を他職種へフィードバックする
- 患者背景を考える



最後に、これらの将来像を思い浮かべた上で今自分たちがやるべきことを行動宣言として提唱した。私たちはまだ薬剤師として現場に出ていない今現在、自分たちが考えたプロフェッショナルリズムである「心」というキーワードに少しでも近づくために、まずは普段の生活の中で意識的に「心」を鍛えていこうという結論に達した。更に、薬剤師になる前でも他職種理解を深める機会があるという意見も出ており、医療従事者としての意識も高めていくという宣言も盛り込まれた。

私達の職能将来像を描き、私たちのプロフェッショナリズムを
行動宣言としてまとめる

患者さんの安全性を1番に考えた行動をする ために

私たちは、

- ・ 人と人との関わりを大切にする
- ・ 当たり前のことを当たり前に行えるところを持つ
- ・ 責任の重さは医師・看護師と変わらないことを自覚する
- ・ 薬剤師になる上でぶれない軸を各自が持つ
- ・ 今から他職種と活発な議論を行い、互いの理解を深める

「人と人との関わりを大切にする」

: 患者さんやその家族との信頼関係を築くためにも、今自分の周りの人たちとの信頼関係を築くことから始める。

「当たり前のことを当たり前に行える心を持つ」

: 薬剤師である前にまず人としての常識を持つ。

「責任の重さは医師・看護師と変わらないことを自覚する」

: 薬剤師も人の命を預かっている職業なのだという事を今のうちから意識し勉学に励む。

「薬剤師になる上でぶれない軸を各自が持つ」

: 薬剤師としての誇りを持ち、ここだけは譲れないという自信と強い意思を持つ。

「今から他職種と活発な議論を行い、互いの理解を深める」

: 学生でも参加できる他職種ミーティングや、他学部の学生との交流の場に参加し、学生のうちから正しい職種理解を目指す。

以上のような議論のもと、班としての薬剤師プロフェッショナリズムをしっかりと練り上げ、行動計画を示すことが出来た。

I A班—2

【議論の経緯】

第3部ではまず、第2部で行った寸劇に対してプロフェッショナリズムを意識したものになっていたかを確認し、足りなかったと思われる内容を討議し、付け加えた。

その結果、「思いやる心」「寄り添う心」「信頼関係」といった患者様に対する「心」が私たちには足りていなかったことに気づいた。薬剤師である前に人としてしっかりした人になることも大切という意見もあった。これらを踏まえて班員全員の意見として「患者さんの安全性を1番に考えた行動」が必要であるという意見で一致した。

【プロダクト】

私達の職能将来像を描き、私たちのプロ
フェッショナリズムを行動宣言としてまとめ
る

I - A 班

患者さんの安全性を1番に考えた行動をするために

私たちは、

- ・人と人との関わりを大切にする
- ・当たり前のことを当たり前にできる心を持つ
- ・責任の重大さは医師・看護師と変わらないことを自覚する
- ・薬剤師になる上でぶれない軸を各自が持つ
- ・今から他職種と活発な議論を行い、互いの理解を深める

【行動宣言】

1 人目

【行動宣言】

常に“患者さんのため”を考えられる薬剤師

【行動計画】

薬の向こう側に苦しんでいる患者がいることをイメージ

専門的知識をつける

周りの人にもっと目を向ける

2 人目

【行動宣言】

基礎研究も行える抗がん剤治療のプロフェッショナルになる。

【行動計画】

○博士課程

基礎研究を行い、知識を深める。

薬局でのアルバイトを行い、患者と関わっていく。

○薬剤師

患者が安心して治療を受けられるように「心」を学習する。

臨床上の問題点を基礎で研究し、その結果を臨床で実践する。

3 人目

【行動宣言】

自分の行動に責任を持てる薬剤師になる

【行動計画】

普段からなぜ自分がその行動をしているのかを常に考える

臨床に出たら患者さんの“命”を“預かっている”ということを常に自覚する

薬剤師として知識や技術を使う訓練をする

4 人目

【行動宣言】

患者さんに「心」が伝わる薬剤師になる

【行動計画】

病気という「こと」よりも、病人という「人」をしっかりと見ていくように心がける。

一生涯知識を積んで、自己研鑽を怠らない。

時にはユーモアも大切！スイッチのオンオフをしっかりとし、面白い話題の収集に努める。

↓

多くの人から信頼してもらえる、やる時はやる薬剤師になる

5 人目

【行動宣言】

信頼される薬剤師

患者さんの気持ちを一番に考えられる薬剤師

【行動計画】

常に自己研鑽、新しいことに挑戦する意欲を持つこと

心に余裕を持つこと

人と積極的に関わり、相手の意見を参考にして共に成長し続ける

6 人目

【行動宣言】

薬に対する知識をつけたうえで、自分の相手が「薬」ではなく「患者」であることを忘れない。

【行動計画】

- ・たくさん勉強して専門的な知識を身につける
- ・普段から人のことを大切にする
- ・患者さんに寄り添えるよう日頃から人の気持ちを考える

7 人目

【行動宣言】

- ・心で寄り添う薬剤師になる。
- ・地域の人に好かれる、いじられる薬剤師になる

【行動計画】

- ・患者さんが求めているもの、してほしいことを考えるようにする。
- ・患者さんが話しやすい雰囲気、相談しやすい関係が作れるようにコミュニケーション能力を高める。
- ・これから多くの人と会話していろんな意見や考え方を聞いて自分のものにする。

8 人目

【行動宣言】

- ・他人の意見を受け入れ、自分の意見を主張する。

【行動計画】

- ・少人数から自分の意見を伝える。
- ・広い視野を持つ。
- ・普段から自分の意見を持つ。
- ・将来、どのような職業についても話し合いの場がある。
- ・他職種の方の意見を受け入れ、理解しつつ、自分の意見を主張し、納得してもらえるように、広い視野を持ち、対応できるようにする。

I B班－1

【議論の経緯】

第三部「薬剤師として求められるプロフェッショナリズムとは？」では、これまでの議論と木下先生の教育講演を踏まえ、自分たちの未来像がプロフェッショナリズムを意識したものであったか振り返った。

まず、第二部セッションⅡで実施した寸劇を振り返り、10年後、20年後の将来を想像し表現した劇中の薬剤師が、プロフェッショナルとしての薬剤師であったかを検討した。

機械化が進み、調剤の大半は機械が行うだろうと予想した私達は、それをデメリットとして捉えるのではなく、前向きに捉えようと言う意見でまとまった。また、在宅医療を劇で取り扱ったこともあり、今後医療従事者として避けては通れないであろう、“超高齢化社会”を中心に考えて行くことにした。

次に、木下先生の講演でも触れられた、NBMについて議論がなされた。“すべての患者さんには物語がある”と言う言葉を元に、自分達の寸劇で登場した在宅医療を利用している患者さんにも、病気で寝たきりの生活を送る前には、必ず健康な時があったことに気付いた。問題を点のみで捉えるのではなくその点を結んで線として問題を捉える目線を持ち、先見性をもって行動を起こして行くことが、これからの薬剤師に求められるのではと考えた。

上記2点を主な議題とし、未来を支える薬剤師として何ができるか、すべきことを考え、グループ内で討論した。そして、自分たちが考えたプロフェッショナリズムは“何のため”に在るべきか検討し、すべての国民が笑顔でいることのできる社会こそが我々の求める理想像なのではないかと考えた。そして、そこにプロフェッショナルな薬剤師として職能を発揮できる可能性が十分にあるという思いから、“**国民の笑顔のために**”、2つの行動宣言を掲げた。

【各プロダクトと詳細】

私達の職能将来像を描き、
私たちのプロフェッショナリズムを行動宣言として
まとめる

I B班

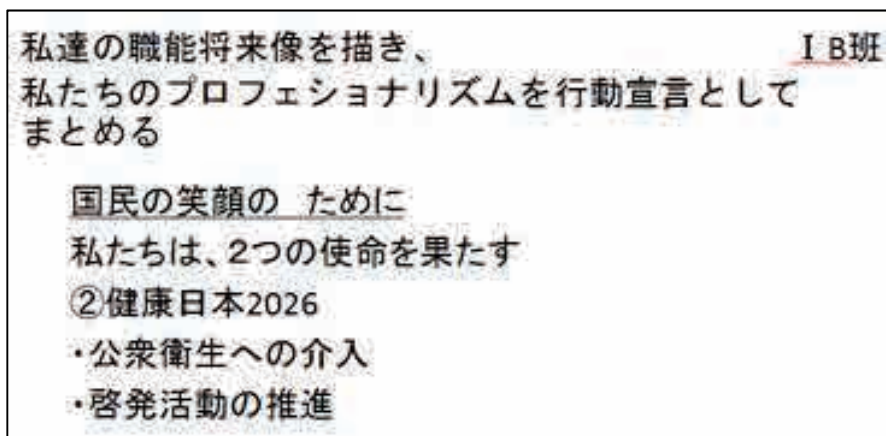
国民の笑顔の ために

私たちは、2つの使命を果たす

①希望に満ちた高齢化社会

- ・有効性と安全性を評価
- ・潜在的ニーズを探求
- ・未来のニーズを予測

積極的に行動



① 希望に満ちた高齢化社会

〈有効性と安全性と評価〉

- ・薬のことだけを勉強すればいいと言う時代が終わり、常に先のニーズを予測していくという姿勢を保つため、自己研鑽に励む姿勢が強く求められる。
- ・薬剤師のモニタリングは安全性(副作用の発現)に目が行きがち。今後は、有効性の評価も積極的に行う必要がある。
- ・自分の経験則だけで「副作用が起こることもあるから投与しない」、「副作用が起きてから対処法を考える」のではなく、起こり得る副作用を予め予測し、それでも有効性を支持すべきかどうか判断。起こり得る副作用に関してはあらかじめ手を打つ。この一連の有効性と安全性の評価を、責任をもって行う薬剤師を今後増やしていく。

〈潜在的ニーズの探求・未来のニーズの予測〉

- ・薬局で調剤する時間が減る分、薬剤師が人として出来ることにより多くの時間をかけることができるようになる。
- ・病院薬剤師であれば病棟にいる時間が長くなり、在宅医療に関わる薬剤師であれば患者宅へ訪問する時間を十分に確保出来る。
- ・薬局の外に出ることで、地域との交流が増える。そして、地域との距離が近くニーズを発見しやすい環境が生まれ、それを医療の現場へ還元することのできる“外勤”薬剤師と言う新しい立ち位置の薬剤師が誕生する。

⇒いずれの行動宣言も、今後薬剤師が社会的評価を高めていくためには、受け身の姿勢ではなく、積極的に実行していくことが重要と考え、積極的にという言葉をつけ加えた。

⇒高齢者社会で生じるであろう問題を重点的に考えた。高齢者に対する薬物療法では、特に安全性と有効性のバランスをとることが難しい。実際には患者およびその家族の意向(つまりニーズ)を尊重しながら検討する必要があり、そこにも患者およびその家族、そして医療チームへの積極的な介入が治療の妥当性の評価のために必要不可欠である。

② 健康日本 2026

〈公衆衛生への介入〉

・機械化による調剤時間の短縮によって誕生する外勤薬剤師の増加により、健康な人にも積極的に関わる時間が確保される。

・公衆衛生に関する行政との連携の強化。→同じ薬学部出身としてより深い関係性を築けることを期待。

・健康フェアなどのイベントにより地域住民との関わりを今まで以上に増やし、健康な人との距離を縮める。→町健康リーダーとして、普段病院・薬局とは関わりのない人にとって頼れる存在になる。そこから得られる声も社会のニーズとなる。

〈啓蒙活動の推進〉

・学校薬剤師が行う、薬物中毒についての講演活動に外勤薬剤師も積極的に介入し、講演内容の充実化や講演対象を拡大していく。

・今の健康を保つために、健康診断や予防接種、生活習慣病の予防の重要性を徹底的に周知し、疾病のリスク因子を取り払う。

⇒薬剤師の第1条にある通り、薬剤師には、「調剤、医薬品の供給その他薬事衛生をつかさどることによって、公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もって国民の健康な生活を確保するものとする。」と言う任務がある。薬局や病院で薬剤師として患者さんと関わるだけでなく、元気な時から行政や企業で働く薬剤師も巻き込み、積極的に関与していくことが、一人一人の健康な生活を保ち、将来の疾病を予防することに繋がると考えた。

I チームの行動宣言

班で着目および主張している点が異なっていたため、それぞれの班で特に伝えたい事は残すようにし、各班の行動宣言をIチームの行動宣言として一つにまとめた。

結果、それぞれの班で触れられていない、または触れていても主張が弱い部分を補填することができた。

【プロダクト】

I チームの行動宣言！

私達の職能将来像を描き、私たちのプロフェ
シヨナリズムを行動宣言としてまとめる I 班

国民の笑顔の ために

- ①患者さんにむけて
 - ・患者の思いに寄り添う医療を提供します
 - ・薬の有効性、安全性の評価します
 - ・患者から求められる存在になります
 - 潜在的、未来型ニーズを探る姿勢をもちます
 - ・薬剤師、他職種の強み・弱みを理解して、チーム医療に積極的にかかわります

I 班

I 班

国民の笑顔の ために

- ②健康日本2026（all薬剤師としてできること）
 - ・公衆衛生への介入します
 - ・啓発活動の推進します

国民の笑顔の ために

- ◆今からできる私達の行動宣言
 - ・人と人との関わりを大切にします
 - ・当たり前のことを当たり前でできる心をもちます
 - ・責任の重大さは医師・看護師と変わらないことを自覚します
 - ・薬剤師になる上でブレない軸を各自がもちます

I B班－2

学生 A

◆自分の行動宣言

私は病院薬剤師として

- ・周り（患者さん、家族、その他医療関係者）が必要としていることに気付けるようになる。
- ・健康なヒトにも積極的に関わる。
- ・医薬品情報の適正管理に努める。

◆自分の行動計画

- ・笑顔であいさつをする。
- ・必要な知識、技能、態度を身につけるため、自己研鑽を怠らない。
- ・勉強会、学会などに積極的に参加し、常にアンテナをはる。
- ・積極的に患者さん、その家族と関わり NBM（背景）を重視し、点ではなく線でとらえて治療に関わる。（信頼関係を築く）
- ・得た情報は常に共有する。
- ・経験を積む。（様々なことに積極的に関わる）

- ・生活習慣病の予防へ積極的に関わり、食生活・運動療法の増進を行う。
- ・危険ドラッグの啓発、薬物の適正使用や有効性・安全性の評価にも積極的に関わる。

学生 B

☆ニーズのその先まで満たせる存在になりたい。

◆自分の行動宣言

未来への洞察力と基礎力を高めていく。

◆自分の行動計画

- ・学生生活をやりきる。(国会試験、研究活動)
- ・将来の挑戦において必要になりそうな力を鍛える。(英語力、ロジカルシンキング etc)
- ・最新の情報に対するアンテナを常に張っておく。(学会、論文、専門誌)
- ・異なる経験を持つ人といっぱい会って、いっぱい話を聞く。(学会、勉強会、ワークショップ)

学生 C

◆自分の行動宣言

- ・変化を恐れない薬剤師になります。
- ・誰かのお手本となるような薬剤師になります。更に、教育・研究への関心を高め、未来の薬剤師育成に尽力し、一人一人が“誇り高き薬剤師”に育つよう努力します。

◆自分の行動計画

- ・5年以内にジェネラリストとして一人前の薬剤師になる。その後、専門性を高め、高度医療の発展及び地域医療の充実に貢献する(スペシャリストからプロフェSSIONナルになる)
- ・日々勉強し、薬の有効性・安全性を評価する。また、その評価がチーム(患者さんを含む)としてベストな選択をサポートできるものになる様、患者の心情や他職種との相互理解に努める。
- ・専門及び認定薬剤師、指導薬剤師を取得する。
- ・日頃から他職種の人との交流も積極的に行い、薬剤師としての信頼を得る。その上で、学生教育に積極的に携わり、互いが臨床教員として協力しあい、学生実習(医歯薬看護リハなど)がより良いものになる様に努力する。
- ・自らが仕事において習得した知識や新たな発見などを、他の医療機関とも共有できるよう、学会や勉強会へ積極的に参加する。
- ・社会と関わる機会があれば積極的に参加する。(地域交流を兼ねた教育講演など)

学生 D

患者さんの笑顔を守るために

◆行動宣言及び計画

1. プロフェSSIONナルとしての知識をみにつけます

→薬剤師として活躍するために、まずは豊富な知識が必要だと考えました。これは今回のワークショップを通して私が痛感した部分でもあります。ワークショップに参加している方々だ

けでも、その知識の豊富さ、その知識を使った応用力や考え方などは私が想像していたものよりもはるかに上の次元でした。今後、より高齢化社会が進み様々な職種の方とチームを組んで仕事を行う場面が増えてくればより多くの知識が必要になっていくと予想されるので今から必死になって知識だけでもより上のレベルを目指します。予測を立てながら仕事をを行います

→私は将来、臨床現場に出て活躍したいと考えています。臨床の現場では刻一刻と変わる患者さんの状態に合わせて対応することが必要になります。投与した薬の効果だけでなくそれによる副作用や、患者さんの容態が変わった後の対応など様々なことを予測しておくことで何かあった時に対するはじめての一步が出遅れないようにします。また社会の変化に合わせて、今何が必要なのかを予測して時代に取り残されない薬剤師になります。

3.相手のニーズを探し続けます

→自分の目の前にいる人が自分に何を求めているのか？私はこの人に何ができるのか？ということをも慢心せずに常に考え続けるようになりたいと考えました。どんなに時代が進み機械化が進んでも、最終的には人対人の関係性は変わりません。目の前の人に対して自分ができることは何なのか？どうしたら相手が笑顔になってくれるのかを一生懸命探し続けていきます。

学生 E

◆自分の行動宣言

患者さんに適した治療を行うために

- ・薬剤師としての薬の知識、その他の知識をもつ
- ・一医療人として医療倫理を忘れない
- ・次世代の薬剤師を育成する

◆自分の行動計画

- ・まずは薬剤師国家試験に合格する。その後薬剤師として勤務しながら薬学はもちろん薬学以外（病態や衛生、防災など）も積極的に勉強をしていく。学会にも積極的に参加し最新の知識を身に付けていく。
- ・相手は薬ではなく患者さんという人間であることを、常に念頭に置く。
- ・実務実習の指導薬剤師の資格を取り、薬学生への指導を行う。学生が感じたことを無下にしない。

学生 F

◆自分の行動宣言

ニーズを探し、変えることのできる薬剤師になる

◆自分の行動計画

- ・常に前向きに先のことを考えるということを心掛ける。
- ・何事にも能動的、積極的に行動する。
- ・1つの視点ではなく、様々な視点から物事をとらえる癖をつける。
- ・その場所、人から求められる人材であり続ける。
- ・薬学的、薬剤師の専門的なことだけにこだわらず、最新の情報等、幅広い知識を得る。

学生 G

達成目標：国民の笑顔のために

◆行動宣言及び計画

- ・常に最新の医療情報・知識を身に付ける
→文献、学会などを通して自ら積極的に情報、知識を収集する
- ・患者を含む国民全体のニーズを知る
→薬剤師として、現場や行政との連携を進める
- ・現場（患者、医療従事者など）が求める医療を提供する
→様々な専門分野の方々と関わり、幅広い視野を身に付ける

学生 H

◆行動宣言

国民の笑顔のために、すべての人の役に立つ薬局薬剤師になる

◆行動計画

- ・まずは薬剤師国家試験に合格する
- ・学生時代にできる色々な経験を積んでおく
- ・就職後、薬局薬剤師としての知識・技能を身につける
- ・在宅や学校薬剤師など、薬局外での活動を積極的に行う
- ・病院・薬局の連携をさらに強化させる
- ・常に潜在的・将来的なニーズを探し続ける
- ・みんなの笑顔のために、できることは惜しまない

今はまだ、将来の自分がどんな薬剤師になれるか分からない。しかし、「たくさんの人の役に立ちたい」という私の思いを叶えるため、自分にできることは精一杯頑張っていきたい。上に掲げた項目は、私の思いを実現させるために必要なほんの一部であり、薬剤師として働いていく中で常にできることを探し求めていきたい。

まとめ

第三部の討論ではグループメンバーと行動目標・計画から発展しそれぞれの夢を語りあうことが出来ました。非常に有意義な意見交換をすることができ、大きなモチベーションとなりました。来年度よりそれぞれのメンバーが、別々の場所で奮闘することになりますが、今のやる気に満ち溢れギラギラした想いを大切にして働いていきたいと考えています。

1 C 班－1

ここでは、「求められるニーズは何か？」というテーマに対して私たち 1-C 班が考えた「医療の進んだ未来でも患者の思いに寄り添う医療」という答えが「薬剤師として求められるプロフェッショナリズム」という事柄と一致していたかどうかの議論を行い、次に「私たちの職能像を描き、私たちのプロフェッショナリズムを行動宣言としてまとめる」というテーマに対して議論を行った。

【題名】

- 私たちが考えた将来設計がプロフェッショナリズムになっていたか検討する。
- 「私たちの職能像を描き、私たちのプロフェッショナリズムを行動宣言としてまとめる」

~~~~~具体的な内容~~~~~

- 私たちが考えた将来設計がプロフェッショナリズムになっていたか検討する。＊：検討点

場面のタイトル：治療選択により大きく変化する薬剤師。

劇の要点

- ①医師と家族が積極的に治療に同意。（患者さんの意見は聞いていない。）
- ②薬の説明に薬剤師が訪れた際、患者さんは治療に後ろ向きであることが分かる。  
薬剤師が患者さんにとって重要な存在であること。
- ＊③医師と治療法について大激論。
- ＊④患者さんの意思を尊重し緩和医療を選択。
- ＊⑤退院時には病院と地域の薬剤師がしっかり引き継ぎ。
- ＊⑥癌疼痛薬の処方薬剤師が主体で行う。

### <検討点>

- ・③について

患者さんの事を考えていなければ、医師と大激論になることはない。もっと議論の激しさを表現すべきだった。

- ・④について

単に患者さんの意思を尊重するだけであれば、薬剤師でなくても出来る。より薬学的なサイエンスを盛り込んだ内容にすればプロフェッショナリズムになっていたのではないか。

EBM 等の内容を入れる。

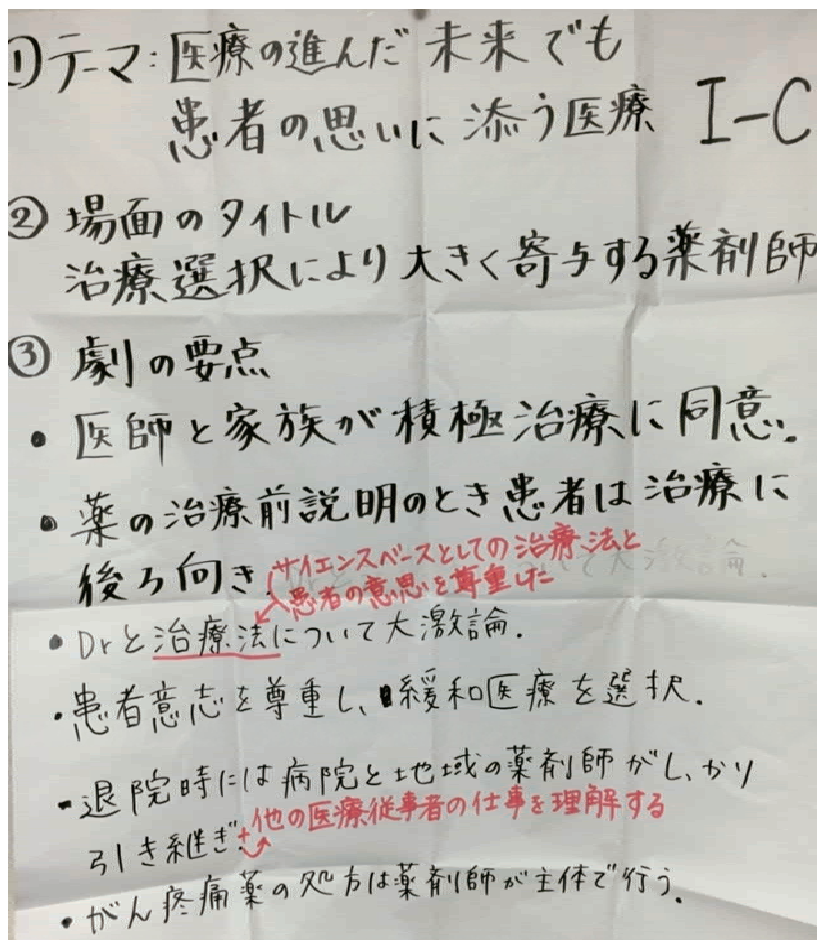
- ・⑤について

他職種に対する理解がまだあまり出来ていないので、登場人物の職の種類が少なかった。より深い職種理解をしておくべきであった。

・⑥について

これについては特に問題なかったと考えた。

薬剤師は医師の負担を減らすとともに、患者さんが身近に相談できる役割であるという事を再認識。



図：実際作成した用紙

●「私たちの職能像を描き、私たちのプロフェッショナリズムを行動宣言としてまとめる」

私たちは以下の点を挙げた。

患者さんの満足度向上のために

私たちは、

- ①患者の思いに寄り添う医療を提供します。
- ②患者中心の薬物治療を推進します。
- ③薬剤師、他職種の強み・弱みを理解して、チーム医療に積極的に関わります。
- ④患者さんから求められる存在になります。

### 【詳細】

#### ・①、②について

患者さんを考えた医療を行うことが最も大切だという事を今までの議論の中で皆が感じたことであるから。

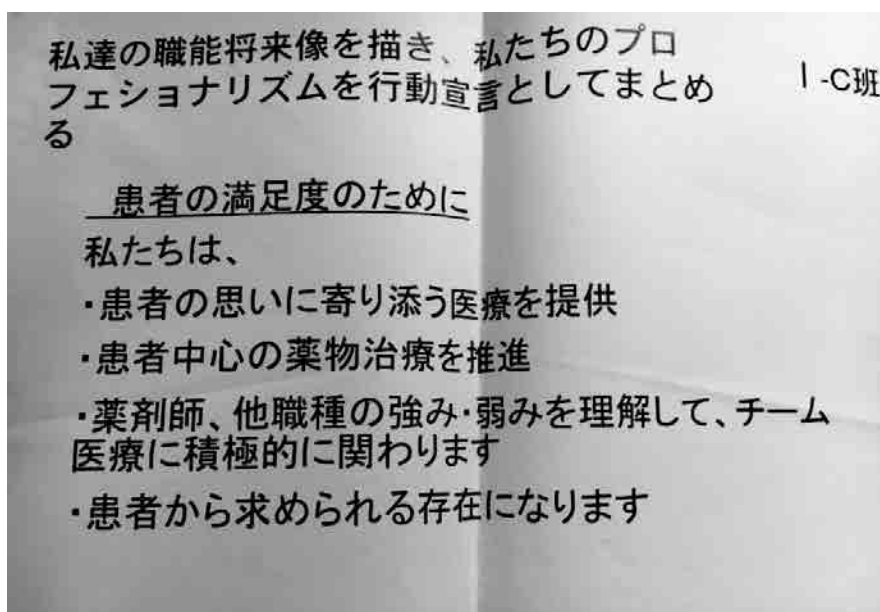
#### ・③について

自分自身とチームの仲間を理解することは、他職種連携を行う上で必須であると考えたから。それによりお互いを助け合うことが出来るため、医療過誤の防止や最高の医療の提供が出来る。

#### ・④について

患者さんに求められる存在になるためにはまず私たちの仕事内容を理解していただくことが必要であると考え、薬剤師が取り上げられるドラマ等を作成するのはどうかと考えたから。情熱大陸に薬剤師が出演する。など・・・

それは、チラシ等での認知度の向上を図る試みはすでに行われているにも関わらず結果が出ていないので、よりインパクトのある方法でないと認知度の向上は図れないと考えた為。



図：実際作成した用紙

## I C班－2

### ＜個人の行動宣言＞

前セッションでの班やチームにおける議論を踏まえ、それぞれの将来像に合わせた個人の行動宣言を決定した。以下、8人それぞれの宣言をまとめる。

① 薬局薬剤師が真に地域社会で貢献するために

私は、

- 24 時間 365 日患者の求めに応じます。
- 私一人ではなく全国の薬局薬剤師の能力向上に努めます。
- 疑わしい処方箋に対して一切の妥協をしません。
- 情熱大陸に出ます。

② 豊かな住民生活のために

私は、

- 薬剤師としての知識、技能の向上に努めます。
- 様々な職種、立場の人と関わり人脈を広げます。
- 薬剤師の方々としっかり議論し、薬剤師が果たすべき役割について理解を深めます。
- 住民生活の様々な場面に立ち会い、ニーズ探索に努めます。
- 医療と社会をつなぐ架け橋になります。

③ より良い薬局薬剤師になるために

私は、

- 周りの人の意見を大切にする。
- 自分の意見を尊重する。  
↓そのために、  
知識を増やす。  
相手を説得する。  
↓残り 8 ヶ月の学生生活で、  
今回の WS について後輩に話す。  
他学年同士で意見交換する

④ 患者に信頼される薬剤師になるために

私は、

- 知識が豊富で、常に向上心を持ち続ける。
- 表現能力を身につけ、説明責任を果たす。
- 患者に寄り添い、患者の利益を優先した医療を提供する。

⑤ 患者の思いに寄り添い、かつ、患者の不利益にもならない医療を行うために

私は、

- 知識・技能を積極的に習得します。
- 様々なニーズに応えられるような視点・考え・知識の習得にも励みます。
- 患者や家族、医師などの思いを知り、医療を行うために、その方の話を聞いたり、その方から私に話してくれるような人間になり、そのために必要なコミュニケーションを身につけます。
- 薬物の有効性、安全性（品質）、を評価し、患者の思いを汲み取り、共に考え、意味のある治療を行います。
- 患者と他職種とともにチームで医療を行います。

#### ⑥ 患者さんを守るために

私は、

- 怒られるとわかっていても自分の意見は絶対言う。
- 患者さんと接する時は自分の知り合い（家族等）を相手にしている気持ちで取り組む。
- 自分が学んだこと（特に失敗して学んだこと）を周りと共有する。
- 意見等に関して、常に疑いの目を持って、自分自身で考える。
- 日々、社会の流れ、薬学的知識について勉強し、社会のニーズ（現在と未来）を考察する。
- 相手の言動の理由を考え、そこから気持ちを考える。
- メリットしかない話に惑わされない。

#### ⑦ 地域の患者のために

私は、

- 正しい知識を身につけるとともに、常に新しい知識も身につける向上心を持ちます。
- 患者にとって一番良き健康相談の相手となれるよう開放的な空間を目指します。
- 地域の医師等、他の医療従事者と良好な関係を築きます。
- 業務を円滑にするため薬剤師としての技能を向上させます。
- 地域の患者さんの生活の癒しとなれる薬剤師を目指します。

#### ⑧ 国民、患者の笑顔のために

私は、

- 知識の向こうに人がいることを意識して勉強する。
- 患者、他職種の人達に薬剤師の仕事を知ってもらうために、皆に分かる言葉で話す。
- 他職種を理解するために、関わりを持つ機会を増やす。
- ニーズを探せるよう、薬剤師の立場から常にアンテナを張っておく。
- 患者に複数の選択を与えられるよう科学的、倫理的な知識を持つ。
- ベストでなくてもベターを目指す。

### 第四部

#### 総合討論

<発表、総合討論>

3チームの行動宣言を共有し、さらに議論を深めた。

それぞれのチームの宣言には共通する内容や特徴的な内容があり、別のチームから議論に至った経緯やその過程についての質問があがった。

以下、一部の討論内容を抜粋する。

Q. 薬剤師の職能をアピールするためには何をすべきか。

A. 積極的な取り組みをして、情熱大陸のような影響力のあるメディアに出演する。

積極的に前に出て、日々接する患者との対話や掲示など現在の取り組みを強化する。

Q. 「意見を言うことを恐れない」という宣言は現在その点が足りないという認識か。

A. 意見を言えるだけの高い能力を身につけるということを自らに言い聞かせる意味。

## **20年後、行動宣言を読み返してみよう！**

### **その時、私たちはどんな薬剤師として生きているだろうか？**

#### ＜自由討論＞

自由討論では、2日間のプログラムを通してさらに全体で議論したいこと、日頃注目している問題、実務実習に対する意見などについて先生、先輩方を含めた議論が行われた。

以下、討論内容をまとめる。

Q. 社会から求められるニーズは変化するのか。

ロボット化等を考えると薬剤師の仕事は必然的に変化する。ただし、機械導入等変化の過程において薬剤師に求められる新たな仕事もあることは事実で、その時のニーズにしっかり対応することが求められる。など。

Q. ロボットに人は勝てるのか。

人にしかできない仕事を探すのは難しいことだが、人間味で勝負する。患者さんに人の方が良いと思ってもらえるような人間性を磨く必要がある。

Q. 部分的な処方権の獲得はあり得るか。

業務の効率を考えれば決まったプロトコールに基づく処方の権利獲得は必然。

現在でもほぼ同様の対応（指示書の活用）は取られており、あえて「処方権」という必要はないのではないか。

処方権は診断から処方を詳しく学んだ医師の権利であり、業務上指示書等による投薬が可能になるとしても薬剤師が権利獲得していく動きには疑問。など。

Q. 高額な抗がん剤と医療財政の問題がよく取り上げられるが薬剤師として意見はあるか。

医療職である薬剤師が何か考えるというよりは患者、国民の立場でもっと議論されるべき。

また、その議論を促すべき。

Q. 経験した実務実習への意見は。

病院薬局だけでなく、製薬企業や公務員として薬剤師が担う役割についても体験する機会が欲しい。

実習施設による実習内容の差はなんとかして欲しい。など

今回、WS という機会に恵まれ、与えられたテーマから普段各々が注目する内容までたくさんの考えを共有、議論することができた。今後、薬剤師として社会に出るにあたり、それぞれが社会に注意深く目を向け、その時々求められる行動がとれるよう、日頃からたくさんの人と議論し、考えを深め行動する能力を磨く必要がある。

## Ⅱ A 班－ 1

第三部「薬剤師として求められるプロフェッショナリズムとは？」では、これまで議論してきたプロフェッショナリズムを踏まえ、将来の薬剤師像を描き行動宣言としてまとめた。

### 【議論の経緯】

Ⅱ A 班では、一学生が薬剤師として成長するまでを題して寸劇を行ったが、木下先生のご講演の中にあつたプロフェッショナル、社会的使命まで深く考えられていなかった。そこで、社会的使命を含めた行動宣言をみんなで話し合った。病院、薬局、企業、行政など幅広い分野で活躍していくことが予想されるので、患者さんだけではない包括的な意味として ALL 市民という単語を用いることにした。さらに日本だけではなく、世界も視野にいた「グローバル社会における ALL 市民のために」私たちは、どのような行動宣言をするかについてまとめた。

- ・生涯研鑽を続け、次世代のプロフェッショナルの育成に努めます。

どの職種でも生涯研鑽することが重要であり、次世代のプロフェッショナルの育成に努めることを最上位にした。

- ・その時々にあつたニーズを的確に把握し、答え続けます。

ニーズについては、その時々に対応し答え続けることが大切であり、このように対応することで 10 年後も見据えたものになるとした。

- ・どのような場面においても相手の立場に立って考えます。

相手の立場に立って考えることも、さまざまな場面や相手が想像された。

(患者さんの家庭環境などのバックグラウンドも加味する)

(他職種の方々と接するときにおいて)

- ・災害時の医療物資の円滑な流通に貢献し、被災者に寄り添います。

災害時の医療物資の円滑な流通に貢献については、国内だけでなく国外も視野に入れることを話し合い、薬だけではなく医療物資とし、どの場所でも被災者の目線に立って行動することが重要なので、寄り添う一文を加えた。

- ・アンメットメディカルニーズに向き合い、新薬の効率的な上市および提供に貢献します。

創薬の分野では、アンメットメディカルニーズに向き合うことが話し合われた。治療法が確立されていない、奏功率が低いものなどに焦点を当て、対処療法だけで待ち続けている患者さんのために貢献することが将来必要になってくるとした。さらに、創薬するだけでなく販売も含めた、上市および提供という文にした。

- ・医療のグローバルスタンダードに対応できる薬剤師になります。

日本では、2020 年東京オリンピックが開催されるため、世界各国から人が訪問することが予想された。さらにグローバル化が進むので、どこにいても誰が来ても対応できる薬剤師が必要と

なった。よって、医療のグローバルスタンダードに対応できることが求められる。

- ・すべての行動に対して責任の取れる薬剤師になります。

どの仕事についても、どんな立場でも除外されることのない ALL 薬剤師に課せられるものとして行動宣言とされた。

以下に、Ⅱ-A 班のプロダクトを示す。

私たちの職能将来像を描き、私たちのプロ  
フェッショナリズムを行動宣言としてまとめる Ⅱ-A班

#### グローバル社会におけるALL市民のために

私たちは、

- ・生涯研鑽を続け、次世代のプロフェッショナルの育成に努めます。
- ・その時々合ったニーズを的確に把握し、応え続けます。
- ・どのような場面においても相手の立場に立って考えます。  
(患者さんの家庭環境などのバックグラウンドも加味して...)  
(他職種の方々と接するときにおいても...)
- ・災害時の医療物資の円滑な流通に貢献し、被災者に寄り添います。

図1. ⅡA班プロダクト1

私たちの職能将来像を描き、私たちのプロ  
フェッショナリズムを行動宣言としてまとめる Ⅱ-A班

#### グローバル社会におけるALL市民のために

私たちは、

- ・アンメットメディカルニーズに向き合い、新薬の効率的な上市および提供に貢献します。  
(有効な治療法の確立を待ち続けている患者さんのために...)
- ・医療のグローバルスタンダードに対応できる薬剤師になります。  
(どこにいても、誰が来ても対応したい！)
- ・すべての行動に対して責任の取れる薬剤師になります。

図2. Ⅱ-A班プロダクト2

行動宣言 (Ⅱ班)

#### 【議論の経緯】

各班での行動宣言を元に、Ⅱ 班の行動宣言をまとめた。

誰のためにはグループで共通した ALL 市民とし、何のためという点では、利益という単語を付け加えた。これからの薬剤師は、どのような場所でも適応する事が重要であり、相手に対する気持ちを的確に把握できることが必要であると考えられた。さらに、専門性や他の職種との連携、正しい情報を扱う必然性や後世を育てることの意義などについてまとめている。

った。

以下、プロダクトとする。

**私たちの職能将来像を描き、私たちのプロ  
フェッショナリズムを行動宣言としてまとめる IIチーム**

**ALL市民の利益のために**

私たちは、

- ・その時々合ったニーズや気持ちを的確に把握し、応え続けます。  
(患者の気持ちを汲み取って問題解決に繋げるetc.)  
(他職種の方々と接するときにおいても...)  
(災害時医療)  
(アンメットメディカルニーズに向き合い、新薬の提供に貢献)
- ・生涯研鑽を続け、専門性を身に付けます。
- ・薬剤師が足がかりとなり、志と一緒に他職種と密接に連携します。  
(薬薬連携etc.)
- ・患者から得た情報を正しく他の医療従事者(患者の関係機関)に伝えます。
- ・次世代のプロフェッショナルの育成に努めます。
- ・すべての行動に対して責任の取れる薬剤師になります。

図3. II班プロダクト3

総括

意見が飛び交う中で、解釈の違いやそれぞれのポリシーの違いなどによって、行動宣言をまとめる作業はとても困難な作業であった。しかし、ALL市民のために将来薬剤師として何ができるのか、何をすべきかを考えていることは、皆同じ意見だった。特に、すべての行動に対して責任の取れる薬剤師になることや次世代のプロフェッショナルの育成に努めることはどの仕事の立場でも必要であり、意見のまとまりもよかった。

## Ⅱ A班－2

第Ⅲ部では、「未来を支える薬剤師としての私たちの行動宣言」をテーマに、第Ⅰ部・第Ⅱ部で議論した「プロフェッショナリズム」や、木下 牧子先生の講演を踏まえ、プロフェッショナルリズムとしての薬剤師がすべきことを挙げ、我々の職能将来像を描いた。また、班・個人のそれぞれぞれの具体的な行動宣言を作成し将来の行動を明確にした。セッションⅡではセッションⅠ、及び第1、2部での討論を踏まえ、薬剤師として私たち個人が10年後、20年後に生き生きと職能発揮していることを描きながら、自分達が考えたプロフェッショナルリズムをそれぞれの行動宣言にした。初めに各個人が自身の行動宣言について考え、グループ内で発表を行い、全員が発表した後にそれぞれの行動宣言及び将来についてディスカッションした。

### 学生 A

- 相手の立場になって考え、行動する。
- 患者さんに寄り添える薬剤師になる。
- 常に向上心を持って日々勉強に励む。
- 辛いことがあっても笑顔を忘れない。

### 学生 B

- 県民生活に貢献する
- 災害時の医療をスムーズにします
- お薬手帳の形を工夫します
- より良い薬事衛生に貢献します

### 学生 C

全ての市民が安心して（健康に）生活できるように、できるために

- 気軽に相談できる薬局薬剤師になります  
外国人も安心できるような語学力をもつという意味も込めて。
- 発信力・想像力を意識し、行動します。  
薬剤師の知名度向上、おもいやりをもって人と接するという意味も込めて。

### 学生 D

病院薬剤師として患者様の健康のために、

- 医療英語が使えるようになります
- 自分の意見が言えるようになります
- 責任のとれる薬剤師になります

### 学生 E

CRO として新薬を待ち望む患者のために...

- 正確に有効性・安全性情報の収集に努め、迅速な新薬開発に携わります。

- 臨床の現場に触れた経験（5年次の長期実務実習）のある者として...  
直接的に患者と接触することが無いCROとして働く中で、自分の業務が臨床現場で実際に使用される医薬品・医療機器の開発に繋がり、その先に1日も早い回復を望む患者がいることを常に考え行動します。

#### 学生 F

アンメットメディカルニーズに応えるために、

- 常に患者さんの声、現場の声に耳を傾けます
- 最新の情報に敏感でいます
- モチベーションを高く持ち続けます
- 自分の役割を探し求め続けます

#### 学生 G

薬学の教育者となるために、

- 専門分野を中心に幅広い知識を得る
- どんな年代、人物でも理解しやすい話術を身につける
- 他者との関わりを大切にする

#### 学生 H

一人でも多くの人を幸せにするために、

- 地域売り上げ、医療従事者の評価でNo.1になります。
- 病院、診療所、在宅医療が一貫した医療、薬物治療を実現します。
- 常に患者様のことを考えて行動します。
- 現状をより良くするために挑戦し続けます。

## Ⅱ B班－ 1

第三部テーマ：薬剤師として求められるプロフェッショナリズムとは？

セッション1：未来を支える薬剤師として何ができるか？すべきことを考えよう！

行動を宣言しよう！

第三部では第二部で作成した社会から求められるニーズに応える 10 年後 20 年後の私たちの姿と木下牧子先生のご講演を踏まえ、私たちの考えた将来像はプロフェッショナリズムを意識していたか？薬剤師のプロフェッショナリズムはどこにあるのか。またどのようにして発揮していくのかを各班で議論し、行動宣言としてまとめ、発表した。

<プロダクト>

|                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                         |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>私たちの職能将来像を描き、私たちのプロフェッショナリズムを行動宣言としてまとめる</p> <p><u>患者の精神的負担を減らすために</u></p> <p>私たちは、</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・かかりつけ薬局が足がかりとなり、地域と密接に連携しあって医療施設への架け橋になる</li><li>・患者から得た情報を正しく他の医療従事者（患者の関係機関）に伝える</li></ul> | <p>私たちの職能将来像を描き、私たちのプロフェッショナリズムを行動宣言としてまとめる</p> <p><u>患者の気持ちを汲み取って問題解決につなげるために</u></p> <p>私たちは、</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・患者背景を知る</li><li>・患者の様子を判断を行う</li><li>・患者の話を聞く、共感する</li></ul> |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

### 【議論の経緯】

まず、第二部で議論した「社会から求められるニーズとは？」「ニーズに真に応える薬剤師の姿」を見直し、私たちが描いた姿はプロフェッショナリズムを意識していたかという点について議論した。結果先の議論を行っている間は特にプロフェッショナリズムを意識していなかったものの、改めてプロダクトを見直すと、ここに通ずる点が多く挙げられていることに気づいた。そこでこのプロダクトをベースに、付け足しや解釈を明文化することで行動宣言を作成した。1 枚目のプロダクトでは真に患者に寄り添うとはどういうことか、患者が求めていることはどういうことなのかという議論に多くの時間を割いた。同グループの参加者の体験談で「インフルエンザに罹患し 40 度近い発熱がある中、立ったまま長々と説明を受け、こちらの様子を特に気にしていない薬剤師がおり、残念だった。」というものがあり、その時の薬局の状況等がわからない部分はあるが、マニュアル的に淡々と“こなす”仕事ではなく、“患者一人ひとりの表情や症状から適切な判断”を行い、負担をかけすぎない意識を持って指導を行うこともプロフェッショナルたる薬剤師の一端を担っていると考えた。ここに挙がっている患者背景を知ることや、様子を見て適切な判断をすること、話を聞いて共感の姿勢を持つことは当たり前のことであるが、当たり前のことであるが故にできていないとそれだけで信頼さえも失いかねな

いため、今一度考え直して行動宣言の一つとして掲げることにした。2枚目のプロダクトでは、地域のかかりつけ薬局が受診すべき重要な兆候をサジェストし、病院へ繋ぐことや、病院を退院し自宅療養にスムーズに移行するために必要な情報を提供するなど地域と病院がより密接に連携することが求められると考えた。具体的な例としては地域の薬局から受診勧奨を受け、病院を受診する際に患者が薬局の薬剤師、病院の医師、薬剤師などに何度も同じ話を繰り返すことは患者にとって負担であるし、聞き手である私たちの受け取り方や態度によっては患者自身が提示する情報を取捨選択してしまうことも考えられる。そのため初めに話を聞いた医療者が必要と思われる情報をまとめ、次に患者が向かう医療機関の医師なり薬剤師なりにきちんとした情報をいつでもどこでも出来るシステムの構築が必要であると考えた。また、時間の都合上、患者の精神的な負担軽減という点についてのみまとめているが、議論レベルでは残薬調整や処方薬について処方医と積極的に議論することで処方量が減り患者または国の経済的負担についても私たち薬剤師が貢献できるのではないかと考えた。

### 【まとめ】

薬学部のカリキュラムが4年制から6年制へと変遷し、薬剤師は薬局内だけでなく様々な場所でその職能を発揮し、患者や他の医療者とより積極的に関わることで地域医療に貢献することが求められている。私たちが議論を重ねて作成した行動宣言や他班の発表を聞き、今後私たちが薬剤師として働く上で社会から求められるであろうニーズやそれに応える姿勢について考える良い機会となった。この行動宣言をきっかけに、参加者それぞれが薬剤師として医療や社会に貢献していくという自覚が芽生えたのではないかと考える。

## Ⅱ B班－2

第三部「薬剤師として求められるプロフェッショナルリズムとは？」では、未来を支える薬剤師として何ができるか、すべきことについて考え、行動宣言を行った。セッションⅠでは、まず小グループで討論し、グループとしての意見をまとめた後、さらにⅡチームで討論してチームとしての意見をまとめた。セッションⅡではグループのメンバー各々が行動宣言について考えた。

### セッションⅠ

#### 1. 小グループ討論

##### 【議論の経緯】

第一部・第二部・木下牧子先生による医療人のプロフェッショナルリズムについてのご講演を踏まえ、薬剤師として求められるプロフェッショナルリズムについて討論を行った。

ⅡB班では先の討論で、今はまだ十分できてはいないがこの先ますます求められるニーズとして挙げられた「チーム医療の一員として薬剤師の職能を発揮すること」の面から議論が進んだ。

チーム医療の一員として薬剤師の職能を発揮するためには、専門的な知識の獲得と提供はもちろん、患者と十分にコミュニケーションをとり、情報を引き出すことで薬剤師として患者の抱える問題の解決に関わっていくことができるという意見や、医療者間での患者情報の伝達が上手くいかず、患者が何度も同じことを異なる医療者に話さなければならないという患者の負担を減らすためにも他の医療者・医療機関との連携が重要であるといった意見が出た。

以上のことを踏まえ、「患者の精神的負担を減らす」「患者の気持ちを汲み取って問題解決につなげる」ために何ができるかを考え、行動宣言をまとめた。

以下にプロダクトを示す。

## 【プロダクト】

|                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>私達の職能将来像を描き、私たちのプロフェッショナリズムを行動宣言としてまとめる <span style="float: right;">ⅡB班</span></p> <p><u>患者の気持ちを汲み取って問題解決につなげるために</u></p> <p>私たちは、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 患者背景を知る</li> <li>・ 患者の様子を判断を行う</li> <li>・ 患者の話を聞く、共感する</li> </ul> | <p>私達の職能将来像を描き、私たちのプロフェッショナリズムを行動宣言としてまとめる <span style="float: right;">ⅡB班</span></p> <p><u>患者の精神的負担を減らすために</u></p> <p>私たちは、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ かかりつけ薬局が足がかりとなって密接に連携し合って医療施設への架け橋になる</li> <li>・ 患者から得た情報を正しくほかの医療従事者(患者の関係機関)に伝える</li> </ul> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## 2. Ⅱチーム討論

### 【議論の経緯】

ⅡA・ⅡB・ⅡC各班で討論した結果を基に、Ⅱチームとしての意見をまとめた。

ⅡB班では、患者のためにという意見が中心であったが、他の2班では、患者だけでなく健康な人も含めた全ての市民（ALL 市民）のためにという意見が中心であり、患者だけを対象とするのは不十分ではないかという議論の結果、「ALL 市民の利益」のために何ができるかを考え、行動宣言をまとめることとなった。

対象がALL 市民であるため、幅広い意味での社会への還元が求められ、患者だけでなく多職種の方々、そして災害時医療や新薬の開発等、議論は多岐にわたった。また、生涯研鑽や責任ある行動等の薬剤師に求められる資質に関する意見や自分達のことだけでなく、次世代の育成にも関わっていかなければならないという意見も出た。多職種との連携という意見は全班で一致した。

行動宣言に対する具体的な例や、行動宣言には至らなかったものの、各班でこれだけは譲れない！という意見はそれに沿った行動宣言に括弧書で組み込んだ。

以下にⅡグループ全体の行動宣言をまとめたプロダクトを示す。

## 【プロダクト】

私たちの職能将来像を描き、私たちのプロ  
フェッショナルリズムを行動宣言としてまとめる IIチーム

### ALL市民の利益のために

私たちは、

- ・その時々合ったニーズや気持ちを的確に把握し、応え続けます。  
(患者の気持ちを汲み取って問題解決に繋げるetc.)  
(他職種の方々と接するときにおいても...)  
(災害時医療)  
(アンメットメディカルニーズに向き合い、新薬の提供に貢献)
- ・生涯研鑽を続け、専門性を身に付けます。
- ・薬剤師が足がかりとなり、志と一緒に他職種と密接に連携します。  
(薬薬連携etc.)
- ・患者から得た情報を正しく他の医療従事者(患者の関係機関)に伝えます。
- ・次世代のプロフェッショナルの育成に努めます。
- ・すべての行動に対して責任の取れる薬剤師になります。

## セッションII

セッションIIでは、セッションIでの討論の結果や自分の志す薬剤師像を踏まえ、グループのメンバー各々が行動宣言について考えた。

以下に各々の行動宣言を示す。

### 学生A

患者さんの安全な薬物治療に貢献する為に

私は、

- ・薬を渡してからが勝負だと自覚し、薬物治療に責任を持ちます。
- ・他職種と連携して求められている職能を発揮します。

### 学生B

モノ→ヒトへの医療提供をするために

私は、

- ・相手の立場に立って物事を考え、発言できる薬剤師になる!気持ちが大事!!

### 学生C

患者さんが安心して退院できるように

私は、

- ・他職種間でそれぞれの専門性を活かし情報提供を充実させていきます。  
(入院している間のコミュニケーションを充実させ、どのような情報を提供したらよいかを見極める)

#### **学生D**

##### 患者さんの健康のために

私は、

- ・ 飲みやすい薬を創ります。
- ・ 語学力アップを目指します。
- ・ 患者さん、医療関係者の人と積極的にコミュニケーションをとります。

常に何事にも挑戦し続けます。

#### **学生E**

##### 患者さんの気持ちに寄り添うために

私は、

- ・ より、コミュニケーションがとれるように努力する。
- ・ 相手の様子、状況、背景をしっかりとみるようにする。
- ・ 知識をつける。

#### **学生F**

##### 製薬企業で活躍する薬剤師になるために

私は、

- ・ 英語を身につける。
- ・ 高品質の薬を作る。
- ・ 薬剤師免許をとる。

#### **学生G**

##### 誰にでも信頼される薬剤師になるために

私は

- ・ とりあえず免許をもらう。
- ・ specialist よりも professional を目指す。
- ・ 日々、知識・技能・コミュニケーション力の向上をはかる。
- ・ 人としてあたり前のことをできるようにする。

#### **学生H**

##### 患者の抱える問題を汲み取り、より良い治療につなげるために

私は、

- ・ 患者とより密度の濃いコミュニケーションをとり、患者を取り巻く環境や思いを引き出します。
- ・ 幅広い知識を身につけます。
- ・ 患者から得た情報を他の医療者に正確に伝えます。

## ⅡC班－1

ⅡC班 「薬剤師として求められるプロフェッショナリズムとは？」

第三部セッションⅠでは未来を支える薬剤師として何ができるか。すべきことを考え、行動宣言を作成した。

### 序論

薬剤師として求められるプロフェッショナリズムとは何か、まずは第二部で議論した「これからの薬剤師に求められる社会のニーズ」について振り返った。プロフェッショナリズムを意識はしていなかったが、改めて見直すと自然とプロフェッショナリズムを考えながら議論していたと振り返り、以下のように要点（①～④）として列挙し具体的な内容について討論を行った。

### 要点

- ① 薬の管理がロボット化しても監査や服薬指導は薬剤師が行う
- ② 患者や家族の相談に対して情報収集を行う
  - ・薬剤師としての社会的な使命がある
  - ・サプリメントとの飲み合わせを調べる
  - ・患者さんのニーズに応える
- ③ 必要に応じてフィジカルアセスメントができる
  - ・聴診器（専門性は医師に劣るが、副作用が出ていないかどうかという確認）
  - ・10年後は自然に行われていると予測
  - ・診断するわけではなく患者さんの安心感を与える意味もある
- ④ 他職種、ヘルパー、医師と連携がとれる
  - ・最低限やらなければならないこと
  - ・正確で迅速な対応ができる
  - ・包括的ケアができる
  - ・他職種との連携により各専門性が活かされ、 $1+1+1=4$ になる

※必ずしも連携を取ることでプロフェッショナリズムではない

以上の要点から最終的に私たちの職能将来像を描き、私たちの考えるプロフェッショナリズムを行動宣言としてまとめた。[下図]

#### 患者さんの利益（健康・ライフスタイルなど）のために

- ・自己研鑽して専門性を身につける
- ・専門性を発揮する
- ・医療人としての態度を示すことで安心感を与える
- ・他の職種との連携（チーム）で志と一緒に協働する
- ・倫理観・責任感

## 総括

薬剤師としての責務を果たすことが社会的使命であり、議論ではグループ内で各個人が意識せず、潜在的にプロフェッショナリズムを考えていた。医療人としてのプロフェッショナリズム（社会的使命）に値することとはロボット化（機械化）できないところであり、ロボットを取り入れることでできた時間は、私たち薬剤師が責任感や倫理観を考慮した上で患者さんの利益（QOL向上）に貢献するために費やす必要があるという考えに至った。

薬剤師の業務は態度・医療人としてのマインド（覚悟）・薬剤師としての社会的使命・スキルがあるからではなく、必要性があるから行うことであり、業務を遂行する上で協働・資源の適正配置（機械化できることは機械に任せる）が重要であることを再確認した。

## Ⅱ C 班－ 2

### 議論の経緯

第Ⅲ部では「薬剤師として求められるプロフェッショナリズムとは？」をテーマにそれまでに議論した薬剤師に求められるニーズや、木下 牧子先生の講演を踏まえ、前日に演じた将来の薬剤師像はプロフェッショナリズムを意識していたかを確認した。セッションⅠでは各班で私達の職能将来像を描き、プロフェッショナルとして薬剤師がすべきことを行動宣言として作製した。作製した行動宣言をグループ間で共有し、グループとしての意見をまとめた。セッションⅡでは個人の具体的な行動宣言を作製し、発表することで自らの考えるプロフェッショナリズムを班のメンバーと共有した。

### 行動宣言

3 グループの意見は以下ようになった。

#### 【Ⅰ グループ】

私達の職能将来像を描き、私たちのプロフェッショナリズムを行動宣言としてまとめる

Ⅰ 班

#### 国民の笑顔の ために

##### ①患者さんにむけて

- ・患者の思いに寄り添う医療を提供します
- ・薬の有効性、安全性の評価します
- ・患者から求められる存在になります  
→潜在的、未来型ニーズを探る姿勢をもちます
- ・薬剤師、他職種の強み・弱みを理解して、チーム医療に積極的に関わります

I 班

国民の笑顔の ために

②健康日本2026（all薬剤師としてできること）

- ・公衆衛生への介入します
- ・啓発活動の推進します

I 班

国民の笑顔の ために

◆今からできる私達の行動宣言

- ・人と人との関わりを大切にします
- ・当たり前のことを当たり前でできる心を持ちます
- ・責任の重大さは医師・看護師と変わらないことを自覚します
- ・薬剤師になる上でブレない軸を各自が持ちます

【II グループ】

私たちの職能将来像を描き、私たちのプロフェッショナルイズムを行動宣言としてまとめる IIチーム

ALL市民の利益のために

私たちは、

- ・その時々 に合ったニーズや気持ちを的確に把握し、応え続けます。  
(患者の気持ちを汲み取って問題解決に繋げるetc.)  
(他職種の方々と接するときにおいても...)  
(災害時医療)  
(アンメットメディカルニーズに向き合い、新薬の提供に貢献)
- ・生涯研鑽を続け、専門性を身に付けます。
- ・薬剤師が足がかりとなり、志と一緒に他職種と密接に連携します。  
(薬業連携etc.)
- ・患者から得た情報を正しく他の医療従事者(患者の関係機関)に伝えます。
- ・次世代のプロフェッショナルの育成に努めます。
- ・すべての行動に対して責任の取れる薬剤師になります。

### 【Ⅲグループ】

#### 私達の職能将来像を描き、私たちのプロフェ シヨナリズムを行動宣言としてまとめる

#### Ⅲチーム

##### 選ばれる・頼られる薬剤師になる ために

私たちは、

- ・相手の話を聞いて受け止める
- ・意見を言うことを恐れない
- ・患者、他の医療従事者、薬剤師同士が顔の見える関係性を築く
- ・患者ではなく人として接します。
- ・自己研鑽、向上心を持って薬学的知識を吸収する。
- ・患者背景を知る
- ・探究心を持って基礎研究と臨床研究の充実を図る
- ・職能をアピールする
- ・継続的なフォローをする
- ・他者のことを常に考える
- ・使命感を持って患者さんと接する
- ・自分の意見を言うことを恐れない
- ・顔の見える関係

#### 各個人の行動宣言

##### 1. 【患者さんの利益のために】

- ・自己研鑽して専門性を身につけます  
→薬剤師として職能を最大限発揮するためには、自己研鑽により専門的な知識をもっているということが不可欠である。そのため、積極的な情報収集・勉強会への参加に努める。
- ・身につけた専門性（知識・技能）を周りの人に発信します  
→専門性を身につけても、発信しなければ専門性をもっていないこととほとんど同じである。そのため、身につけた知識を発信できるよう常にアンテナを張っているよう心がける。
- ・自分の意見をもってよりよい医療の提供に貢献します  
→よりよい医療を作り上げるためには、今回のWSのように様々な人と情報交換をすることが重要である。そのとき、薬剤師としての自分の意見をもっていれば、お互いに情報交換でき、さらによりよい医療を作り上げるためにはどうすればよいか考えることもできると思う。そのため、常に社会全体に目を向け、様々な問題に対する自分の考えをもつよう心がける。
- ・ささいなことでも質問してもらえぬ雰囲気づくりに努めます  
→医療者としてチーム医療を行う上で重要なことは、信頼してもらえぬ関係づくりである。そのため、「何でも気になったことは相談してください」という一言や笑顔を心がける。
- ・コミュニケーションスキルの向上に努めます  
→他者と関わる上では、言い方や態度によって相手に嫌な思いをさせてしまうことがある。そういったことをなくすため、勉強会や情報交換会等に積極的に参加し、様々な人と出会い話をすることで、コミュニケーションスキルを身につけていく。

## 2.【患者さんの利益のために】

- ・自己研鑽し、身に付けた専門性を積極的に発揮するよう努めます  
→積極性が足りないことで専門性を発揮する機会を失うことがないように心掛ける。
- ・責任感ある働きでもって患者に安心感を与えます  
→薬剤師としてどう立ち振る舞うべきかを常に考えて言葉よりも行動によって患者に安心感が与えられるように努める。
- ・信頼を築くためにコミュニケーション能力の向上を図ります  
→学生の内から多くの人と関わることで、会話のスキルを身に付ける。
- ・薬剤師としての意見をしっかり持ちながらチーム医療へ参加します  
→自分の意見を持ちそれを発信することの大切さを今回学んだので、これを今後チーム医療に参加するにあたって活かしていきたい。

## 3.【患者さんの利益のために】

- ・自己研鑽し、専門性を高めます  
→専門性を高めなければ、薬剤師としてのプロフェッショナリズムを発揮することはできないので、自己研鑽の必要がある。
- ・患者さんの立場に立ち、患者さんの様々な不安に寄り添います。  
→薬剤師は、薬の説明をすることに重点を置きすぎる傾向があるのではないかと感じる。  
患者さんがその時どのような状況でどのような情報を必要としているのか、何を不安に思っているのか等を患者さんの立場に立って考えていける薬剤師になりたいと思う。
- ・医療人としての自覚を持ち、常に責任を持った行動をします。  
→病院に一步踏み入れたら、医療人としてどんなときでも患者さんの利益を優先する精神でいなければならないと思う。その精神があることで患者さんからの信頼を得ることができるのではないかとと思う。

## 4.【患者さんの健康面でのニーズに応えるために】

- ・自己研鑽します（医療に関わる全てのこと以外も）
- ・多岐に渡ってアンテナを張ります（患者さんとのコミュニケーションの円滑化）
- ・気づきのトレーニングをします（一見変化のないこともいち早く気づき患者さんに安心感を与えます）
- ・他職種の内容（概要など）を知り、どこが長けているかを把握します
- ・地域へ薬剤師としての視点から講演会などで信頼を得ます
- ・語彙力の向上を図ります

## 5.【私に関わる全ての人の幸福のために】

- 就職活動中のため、臨床で活躍する薬剤師に限定しないで ALL 薬剤師目線で考えてみました。
- ・一人ひとりの命の重みを常に意識します。  
→個人の尊厳と権利を尊重し、しっかりとした倫理感を持って行動していきます、という

気持ちを込めています。

- ・薬剤師として責任ある行動を取ります。

→ALL 薬剤師として、私に関わる全ての人に対して、いいかげんなことはしませんと宣言します。

- ・自分の行動に責任を持ちます。

→そのままですが、取った行動にも責任を持ちます。

- ・生涯研鑽し続け、その成果をもって社会に貢献します。

→自分がどんな分野で活躍することになっても、生涯研鑽を宣言します。また、自己研鑽で得たものをしっかりとアウトプットさせて、社会に貢献していきたいと思います。

- ・常に思いやりの気持ちをもって接します。

→人の気持ちと立場をよく考慮し、優しい心で人と接することを宣言します。それが、ロボットではなく ALL 薬剤師に求められていることだと感じたためです。

#### まとめ

どんな職種についても、ペーパー薬剤師であっても、自分が薬剤師であるということの自覚をもって、社会貢献していきたいと思います。また、今回の WS を通じて学んだ社会のニーズ、薬剤師のプロフェッショナルリズムを常に考え続けていきたいと思います。

#### 6. 【患者さま・お客さまのより良いライフスタイルのために】

- ・一人ひとりの「物語」を知る時間を惜しまない（NBM : Narrative Based Medicine）

→その人に最適な医療を提供するためには、単に疾患名や病状を知るだけでなく、その人の生活やこれまでの背景、気持ちといった「物語」を知る必要があると思います。そのために必要な時間を決してないがしろにせず、時間をかけて目の前の患者さま・お客さまと向き合います。

- ・ICT を適切に活用する（薬剤師の活動時間の延長・確保、患者の生活の質向上）

→ICT に関する知識と技術を、薬剤師に最低限必要なものとして身につけます。上記の『『物語』を知る時間』を確保する手段として、ICT（Information and Communication Technology : 情報通信技術）を活用し、自動分包機や水剤分注機といった機械に任せられる調剤については積極的に取り入れます。また、電子版薬歴や電子版お薬手帳、服薬支援ロボットといったツールを適切に用いて、患者の生活がより良くなるように患者へ推進します。

- ・医療従事者の環境改善に貢献する（スタッフの顔色、余裕）→患者への対応向上

→患者に最善の医療を提供するために、薬剤師（医療従事者）の環境を良くする必要がありますと考えます。患者と接する薬剤師も患者と同じヒトで、顔色が悪かったり、余裕がないような様子であったりする時もあるでしょう。そのような薬剤師が相手では、患者が治療・療養にきちんと向き合えません。患者と対応する時間をより充実したものにするために、患者に加え自分の周りの薬剤師にも配慮した環境改善に取り組みます。

#### 7. 【患者さんの健康を守るために】

- ・自己研鑽

→常に最新の知識を身に付けるために論文を積極的に読む。

- ・知識の共有

→薬剤師内での知識の差を少なくする為に得た知識を共有する場を設ける。

- ・相互理解

→チーム医療で患者さんの治療が適切なものになるように、医師・看護師などの職業ごとに異なる治療に対する考えかたやアプローチの仕方を理解するように努力する。

- ・患者さんを理解する

→患者さんの背景（食生活・仕事環境・嗜好品・生活習慣など）を理解する為に病棟にて会話を増やす

## 8. 【すべての人のために】

- ・自己研鑽します

→薬のことはもちろんそれ以外の様々なことも情報収集し、知識を身につけます。

- ・ニーズに応える

→患者さんや医療関係者など様々な方からの要望に応えられるように努めていきます。

- ・信頼関係を築きます

→自己研鑽をし、ニーズに応じていくことで相手との関係を築いていき、信用ではなく信頼を得られるようにしていきます。

- ・責任を持ちます

→色々なことを行う上で薬剤師としてはもちろん人として責任を持って行動します。

### ⅢA班－1

#### 議論の経緯

##### 【作業1：プロフェッショナリズムを振り返る】

木下先生の講演を聞き、プロフェッショナリズムについて振り返ったところ、プロフェッショナルリズムには「利他主義」、「専門職としての質の向上」、「社会的責任」の3つの要素が不可欠であるという話になった。そこで作成したプロダクト見直し、自分たちが考えた未来の薬剤師像にその3要素が含まれていたか、話し合った。その結果、自分たちが考え、作成したプロダクトの中には自然と3要素が全て含まれていることがわかった。例えば、「利他主義」は積極的なITツール（健康相談アプリ）の導入であり、「専門職としての質の向上」は患者の電話相談において、アドバイスが出来るレベルの幅広い知識を獲得していること、そして「社会的責任」は医療の公平性として遠隔地への医療提供、また説明責任としてCMを活用したITツールの周知などがある。これらのことは、3要素を含ませようとして考えたわけではなく、チームで話し合った結果、自然と考えられたことだった。以上のことから、プロダクト作成にあたりチーム全員が薬剤師としてのプロフェッショナリズムを自然と意識していたこと、また自分たちが考えた未来の薬剤師像はプロフェッショナルであったことが確認された。

##### 【作業2：未来を支える薬剤師としての私たちの行動宣言】

次に行動宣言について考えるときに、一言でどういった薬剤師になるのかが曖昧だったので再度寸劇を振り返った。寸劇の中では、要点として「あなたの身近に薬剤師」を挙げたように、患者とファーストコンタクト（CMなども含め）を取るのは医師ではなく薬剤師だった。こういう設定は自分たちが将来的にこうなってほしいという希望も入っているが、薬剤師がファーストコンタクトである意義が考えられたからだ。これらのことから患者とファーストコンタクトを取るということが自分たちの考える薬剤師像を一言で表していることということがわかり、「ファーストコンタクトが取れる薬剤師になるため」の行動宣言をする方向に決まった。具体的な行動を考えるときに、薬剤師がファーストコンタクトである意義をもう一度考えた。意義として、①薬局での継続的な患者サポートが可能②薬のことだけではなく幅広い分野の勉強をしている③薬剤師が様々な医師の処方や情報を集約することで、円滑に医療を行うことが可能などのことが考えられた。また意義だけでなく、患者に安心を届けるために薬剤師として、また医療人としてやるべきこと、必要なことも考え、これらをもとに行動宣言を打ち立てた。

第2部セッション

III-A

- ① 安心安全な生活の確保
- ② 「あなたの身近に薬剤師」
- ③
  - ・ 薬剤師へのアクセスを簡単にする
  - ・ ITツールを活用する
  - ・ 遠隔地への医療提供



- ・ 積極的なITツールの導入
- ・ 遠隔地への医療提供
- ・ CMによるITツールの周知
- ・ 安心安全な生活の確保のために幅広い知識を持っている薬剤師



薬剤師がファーストコンタクトである意義

私達の職能将来像を描き、私たちのプロフェッショナルリズムを行動宣言としてまとめる IIIA班

ファーストコンタクトが取れる薬剤師になるために

私たちは、

- ・幅広い知識を身につける
- ・患者さん、他の医療従事者、薬剤師同士が顔が見える関係性を築く
- ・他者のことを常に考える
- ・継続的なフォローに努める
- ・職能をアピールする

IIIA班－2

第3部セッションIIでは、第2部および第3部セッションIでの討論の内容をふまえて「私の行動宣言」をそれぞれ作成し、発表した。

班員8名の「私の行動宣言」の内容は以下の通りであった。

①医療に貢献できる薬剤師になるために

- ・幅広い知識＋コミュニケーション能力→経験
- ・理想の薬局をつくる
- ・薬局経営の勉強

②信頼されるMRになるために

MRの仕事の中で薬剤師としての使命感を持ち行動する

〔具体例〕

- ・薬学の知識を深めていく
- ・今そこに患者さんがいることを想定して仕事や生活をする

③薬学生・患者の教育に携わる

～行動計画～

- ・幅広い知識を付け、現場で働く
- ・指導薬剤師資格を取る
- ・母校で講演、OSCE指導

- ・患者と積極的に話す
- ・地域の人に向けて講演
- ・雑誌など作成

④NOと言える薬剤師になるために

- ・幅広い知識を身につける
- ・正確に伝える術を身につける
- ・信頼関係を築く

⑤選ばれる薬剤師になるために

- ・知識の習得（例：食事やサプリ、中毒、予防接種）
- ・素敵な笑顔

⑥選ばれ、生き残れる薬剤師になるために

まず知識や技能を身につけるよう努める

- ・国家試験や卒業試験に向けて知識を身につける
- ・就職後、研修や現場から何が必要とされているかを学び、身につける
- ・インプット及びアウトプットを積極的にし、現場の戦力になれるようにしたい

⑦いざという時(災害などの緊急時)に動ける薬剤師になるために

- ・薬剤師免許の重さを自覚し、責任のある行動をとる
- ・患者、他の医療従事者、薬剤師と顔の見える関係を築く
- ・薬局薬剤師として、地域の医療に貢献する
- ・幅広い分野の知識を持って、仕事に臨む
- ・災害などがあつた場合に活躍する

⑧自分にしかできない、自分だけの薬剤師像

～行動計画～

- ・ゴールを決めずに勉強に取り組む
- ・他人の気持ちを分かる人間になる
- ・色々なことに興味を持ち挑戦する

既に薬剤師として活躍しているタスクフォースの方々からは、行動宣言について薬剤師としての経験からくる具体的なアドバイスをいただいた（例：薬局経営の現状について、現場の薬剤師の立場から見る「信頼できるMR」の条件について、など）。

行動宣言を紙に書き出すことで、これから何をすべきかということについて考えが整理されたとともにしっかりと認識することができたように思った。

薬剤師になった後のことについてあまりイメージがつかない部分もある中で行動宣言を考えたが、タスクフォースの方々から薬剤師・MRの現状について教えていただき、それに合わせてどのように行動すべきか考える良い機会になったのではないかなと思う。

### Ⅲ B 班－ 1

第三部では「薬剤師として求められるプロフェッショナリズムとは？」をテーマとし、第一部、第二部で議論した内容を踏まえて薬剤師としての将来像を描き、各グループと個人の行動宣言を作成した。セッションⅠでは小グループで議論してまとめ、さらに各班で議論を行って統合し、Ⅲ班としての行動宣言をまとめた。以下に議論の経緯とプロダクトを記す。

#### 【議論の経緯】

第Ⅰ部、第Ⅱ部では10年後、20年後に求められる社会のニーズについて議論を行い、将来薬剤師としてどうあるべきかについて議論を深めた。これまでの議論と木下先生のご講演を振り返り、医療の現場にとどまらず様々な場面でロボット化が進む中、ロボットにはできない医療を提供するためには薬剤師としてどうあるべきか、どのようなことをすべきかについて意見を出し合った。

その中で、社会的使命感を持って患者さんと接し、多職種と共同して患者さんの背景を十分に把握しながら治療にあたることはロボットに置き換えることができない部分であると考え、具体的に必要なことや実現に向けて必要な行動について考え、プロダクトを作成した。

#### 【プロダクト】

私達の職能将来像を描き、私たちのプロフェ  
シヨナリズムを行動宣言としてまとめる Ⅲ B 班

#### ロボットには出来ない医療を提供する ために

私たちは、

- ・使命感をもって患者さんと接します。
- ・多職種へのアプローチを積極的にします。  
→緊急時や例外への対応を充実させます。
- ・患者ではなく人として接します。
- ・探究心をもって、基礎研究と臨床研究の充実をはかります。

#### 【行動宣言の具体的な内容】

- ・使命感をもって患者さんと接します。  
→ロボットには社会的使命がなく、医療行為をする際の責任をとることが難しい(責任の所在が不明確になる)。

一方で薬剤師は薬物治療を安全かつ効果的に行う責務を担うプロフェッショナルとして社会的使命を負っており、この点はロボットにはできないことであると考えられる。

- ・多職種へのアプローチを積極的にします。

→ロボットはあらかじめ決められたことしか実行できず、多職種と連携して医療にあたるといったことができないためチーム医療を図ることができない。また、患者さんの容態が変わった時などの緊急事態に対応することが難しい。

他職種と連携してチームで医療にあたり、不測の事態にも対応できる薬剤師が求められていると考える。

- ・患者ではなく人として接します。

→医療人として患者さんの背景を知ることが重要であるが、現状の薬剤師は患者さんの背景を十分に理解しているとはいえない。薬剤師として患者さんに寄り添い、人として接することは信頼関係を築くことは非常に重要なことであり、ロボットにはとってかわることができないことと考える。また、多職種と協働して患者さんの背景を把握することも重要である。

- ・探求心をもって、基礎研究と臨床研究の充実をはかります。

→ロボットは大量のデータを瞬時に取り寄せ、既存のデータから適切な情報を引き出すことができるが、好奇心をもって新しいデータを作り出す力はない。一方、人は好奇心や探求心をもって新しいデータを出すことができ、基礎研究や臨床研究を行うことによって新たな医薬品の創出や医薬品データの集積につながると考える。

各班で議論した「薬剤師として求められるプロフェッショナリズムとは？」についてⅢA～ⅢC班で共有し、グループの行動宣言・行動計画としてまとめた。各班ではそれぞれの視点からのアプローチがなされており、特徴的な意見が多く出ていたが、多職種間で連携を図り、患者さんの背景をしっかりと把握したうえで使命感をもって医療にあたるといったことが共通の意見として挙げられた。

それぞれ表題に対する捉え方は異なっていたが、本質的な部分ではよく類似しており、挙げた意見を総合的に勘案したうえでⅢ班としての意見を集約し、以下に示す。

## 私達の職能将来像を描き、私たちのプロフェシヨナリズムを行動宣言としてまとめる

### Ⅲ チーム

#### 選ばれる・頼られる薬剤師になる ために

私たちは、

- ・相手の話を聞いて受け止める
- ・意見を言うことを恐れない
- ・患者、他の医療従事者、薬剤師同士が顔の見える関係性を築く
- ・患者ではなく人として接します。
- ・自己研鑽、向上心を持って薬学的知識を吸収する。
- ・患者背景を知る
- ・探究心を持って基礎研究と臨床研究の充実を図る
- ・職能をアピールする
- ・継続的なフォローをする
- ・他者のことを常に考える
- ・使命感を持って患者さんと接する
- ・自分の意見を言うことを恐れない
- ・顔の見える関係

### Ⅲ B班－2

#### 【3B 班 行動宣言と具体的な行動計画】

グループの行動宣言を受け、個人の行動宣言を発表した。これまでのディスカッションでみてきた将来像について、言葉にすることで、それぞれ明確な目標を持つことができた。一人ひとりが行動を実践し、よりよい医療を築いていくことを決意した。

#### 【患者さんに必要とされる薬剤師になるために】

- 一. 食事・運動・薬物療法に精通できるように、自己研鑽に励みます。
- 一. 腎臓の障害を持つ人、小児、高齢者等特別な背景を持った方々への配慮ができるような薬剤師になります。→専門薬剤師の資格を獲得
- 一. 医療人として、医師・看護師等をより良い関係を築けるよう、相手を尊重する気持ちを忘れずに接します。
- 一. 「患者さん」としてではなく、「人」として接します。

#### 【フィールドを超えて活躍する薬剤師になるために】

- 一. 何事にも嫌がらずに挑戦する。
- 一. 薬学領域に限らず、時事や科学、流行等幅広く学び続ける。
- 一. 新しい物事に取り組む時には、これまでの経験を活かす場を作るようにする。
- 一. どのような場所にも馴染めるようなコミュニケーションスキルを手に入れる。
- 一. 自分の生活をおろそかにしない。

**【多くの人に影響を与えられる薬剤師になるために】**

- 一．発言することを恐れない。
- 一．地域の人々に薬剤師として他の方と連携して発信していく。
- 一．患者さんを常に意識した仕事を行う。  
(医師や薬剤師が患者さんに伝えやすい資料作りなど)
- 一．関わる全ての人の背景や考えを理解できるよう努力する。

**【患者さんにとって最適な医療を提供するために】**

- 一．患者さんと時間をかけてじっくりと話します。
- 一．他職種間で信頼関係を築き、チームで治療に当たります。
- 一．臨床現場の意見を基礎研究の分野に反映し、フィードバックできるようにします。
- 一．薬剤師、研究者としての使命をもち、医療現場に関わります。

**【地域医療に還元できる薬剤師になるために】**

- 一．幅広い知識を備える（薬学に限らない）。
- 一．他職種連携を推進する。
- 一．IT、ロボットと共存する。
- 一．医療費の削減に努める。

**【幅広い分野の仕事に携わる薬剤師になるために】**

- 一．自分から積極的に情報を集めます。
- 一．地域の健康に関するイベントの企画・参画に努めます。
- 一．現場の声を聞き、制度（法律）と現場とのすれ違いを防ぐ取り組みを積極的に行います。
- 一．海外の情報も収集し、国内での対応に役立てます。

**【患者さん一人ひとりに合った医療を提供するために】**

- 一．相手を恐れずに自分の意見をはっきりと言います。
- 一．患者さんの声に耳を傾け、患者さんが今どのようにしてほしいのか、思いを汲み取ります。
- 一．薬剤師として自分に何ができるのかを常に考えます。
- 一．薬剤師としての自己研鑽に励みます。

**【ヘルスリテラシーの向上に貢献する薬剤師となるために】**

- 一．使える知識を増やしていく。  
特に、薬剤師の強みである、「化学的な視点」を磨き、還元する。
- 一．地域の幼稚園、小中学校や公民館で講演会を開く。
- 一．当たり前のことを当たり前にする。
- 一．利他の気持ちで行動する。

### Ⅲ C 班－ 1

#### 《議論の経緯》

以下に示す①と②の大きな 2 本柱について話し合いを行った。

①木下牧子先生の講演を聞き、プロフェッショナルとして 10 年後、20 年後私たちが働く上で、第二部で作成した寸劇のプロダクトは十分であったか、不足はなかったか等を振り返った。

②第二部で話し合ってきた「求められるニーズは？」において主に私たちの班で話題の中心になっていた“ロボットではなく人にしか出来ないこと”を軸に考えながら「薬剤師として求められるプロフェッショナルリズム」とは何であるかということについて話し合いを行い、私たちのプロフェッショナルリズムを行動宣言にまとめた。

①木下牧子先生の講演を聞き、第二部で作成した寸劇のプロダクトは十分であったか、不足はなかったか等を振り返り、その中で次のような意見が上がった。

#### ・薬剤師としてもっと患者さんの利益を考えられたのではないか。

→今回の寸劇では、血圧の変化や栄養状態など、患者さんが実際にどのような生活を送り、その中でどのように薬を服用しているか等、もっと生活の面からサポートしていくことが出来れば、より患者さんそれぞれに合った医療を提供出来、患者さんの利益につながったのではないかと考えた。薬剤師として薬の面からのアプローチに加え、薬の面以外からのアプローチを行うことも重要であり、このことを寸劇のプロダクトに書き加えた。

#### ・専門職としてより質の向上が求められるのではないか。

→患者さんに不安な点や改善できることがある場合に、薬剤師はそのことに向き合い、患者さんにとってより良いものを提供する必要がある。患者さんに向き合う際に、薬剤師として個人個人が考え、時には薬剤師同士で意見を出し、それぞれの意見をぶつけ合い、より良い答えを導き出すことも重要であるという意見が上がった。意見をぶつけ合うためにも各自、日々学び、知識をつけていることが大事であるという考えに至った。

#### ・コミュニケーションの面においては寸劇で示せていたのではないか。

→患者さんとのコミュニケーション、薬剤師間でのコミュニケーション、医師とのコミュニケーションなど連携の面においては上手く表現できていた。

以上のことを踏まえて、寸劇のプロダクトを修正した。

②今までの話し合いの結果、10 年後、20 年後にはロボットと一緒に働いている世界があるのではないかということから、人にしか出来ないことで全ての人のより良い生活を支えるために私たちが今、何をすべきであるかということを考え、行動宣言を作成した。

実際に私たちがこれからどう行動していくのかということを黒字で示し、その行動は何を目的に行っていくのかということを青字で示したプロダクトを以下に示す。

## 私達の職能将来像を描き、私たちのプロ フェッショナリズムを行動宣言としてまとめる (ⅢC班)

人にしかできないことで、すべての人のよりよい生活を支えるために  
私たちは、

- ・トータルケアを目指して、  
生活指導をする、幅広い知識(栄養、介護など)を身につける、普段の会  
話から患者背景を考える
- ・薬剤師/他職種間の連携を目指して、  
相手の話を聞いて受け止める、相手に合わせた伝え方を身につける、意  
見を言うことを恐れない、つながり・交流をもつ
- ・高い能力を持った薬剤師を目指して、  
自己研鑽、向上心を持って薬学的知識を吸収する

10年後、20年後の薬剤師として、人にしかできないことに一生懸命取り組み、求められる存在になり、患者さんや地域の人、健康な人を含めた全ての人達のより良い生活を支えられるようになりたいという思いから、この行動宣言を掲げた。

私たちの班がこのワークショップを通じて、“意見を言うことを恐れない”ということがとても大事であるということを認識した。意見を言わないと相手とぶつかることもできず、新しいエネルギーも生まれない。

薬剤師として働く時だけでなく、薬剤師になるまでの今この間にも実践していけることを行動宣言として考えたため、実際に明日から行動にうつし、私たちの目指す薬剤師になれるように努力していきたい。

### ⅢC班－2

ここでは、薬剤師として求められるプロフェッショナリズムとはなにか、ⅢC 班のメンバーそれぞれが考えるプロフェッショナリズムを行動宣言としてまとめた。

#### 【メンバー1】

“あなたがいい”と言ってもらえる薬剤師になるために、

(→患者さんだけではなく、すべての医療従事者にも”あなたに頼みたい”と言ってもらえる薬剤師になりたいと思いこの目標を立てた)

<行動内容>

\*コミュニケーション

- ・相手が何を思っているのか、何を感じているのか考えながら会話する

(→会話から相手の背景を読み取ることが適切な対応につながる)

- ・相手や状況に応じた言葉選び、話し方、態度をする

(→自分の考えを相手にきちんと伝えるためには伝え方も重要である)

- ・自分から積極的に人と交流する

(→WS などに積極的に参加する、自分から話しかけることでコミュニケーション能力の向上、つながりを大切にする)

- ・まず相手の意見を受け入れて認めたうえで自分の意見もしっかり言う

(→自分の意見を言うことを恐れないこと、そのためには相手の意見も受け入れて理解したうえでお互いを尊重しつつ話し合うことが重要だと感じた)

\*知識・技能

- ・机上で勉強していることが臨床でどう役に立つか考える

(→試験のために勉強するのではなく、その先に臨床があることを見据える)

- ・薬学とはまったく関係ない分野も興味、関心を持つ

(→患者さんのトータルケアのためには幅広い知識を持っていることが必要であるうえ、知っていることが多いほうが人との会話が円滑に進む。興味を持つのと持たないのとでは吸収できる量が大きく異なると思うので、今まで興味がなかった事項もまずは興味を持つことから始めたい。)

- ・自分で勉強内容に制限をつけない、高みを目指す

(→知らない知識はない。この範囲は知らない、ここまではできない、と自分で制限をつけず、より多くのことを吸収してやろうという食欲さを持つ。)

\*まとめ

- ・自分に求められていること（ニーズ）を意識する

【メンバー2】

病院で働く者としてプロフェッショナルでいるために、

<行動内容>

- ・常にまっさらな気持ちで物事を学ぶ姿勢を忘れない

(専門職という資格がある仕事につくと、その仕事をしているという自負やプライドが少なからず出てきます。それらのプライドは、薬剤師という仕事をする上では大変重要なものだと思いますが、臨機応変に自分のプライドを抑える必要もあります。私が6年間かけて学んできた薬学の知識は、自分のプライドを保持するために学んできたわけではなく、全ては病を患う人、そして他者の健康を守るために身につけた知識です。一時の感情に流されず、「全ては他者の利

益のために」ということを忘れずに、現場に立ちます。)

- ・自分が知らないことは素直に「知らない」と認められる謙虚さを持ちます
- ・自分に足りない知識・技術は貪欲に吸収し、仕事に活かします

### 【メンバー3】

信頼される社会人になるために、

<行動内容>

- ・基礎的な知識を身につける
- ・円滑なコミュニケーションができるようになる
- ・医薬品のエンドユーザである患者さんのことを常に意識する

### 【メンバー4】

誰かの健康を守るために、

<行動内容>

- ・的確な情報発信します
- ・患者や色々な人と話をして、多くの物語に触れます

### 【メンバー5】

患者さんにとって身近で頼られる薬剤師になるために

<行動内容>

- ・積極的に色々な人と話す
- ・今回のような集まりに参加して、薬剤師間のつながりをつくる
- ・勉強する
- ・自分の意見を恐れずに言うように心がける

### 【メンバー6】

医療貢献のために

<行動内容>

- ・理想を持って行動する
- ・強い気持ちを持つ
- ・自己成長のために常に向上心を持つ
- ・薬剤師としての誇りを持つ

### 【メンバー7】

人のために働ける薬剤師になるために

<行動内容>

- ・色々なことに積極的に取り組みます！
- ・相手を思いやる気持ちを忘れません！

セッションⅠでは、ⅢA、ⅢB、ⅢC 班それぞれが考えるプロフェッショナリズムをチームⅢとして行動宣言にするため、総合討論が行われてきた。セッションⅡでは、Ⅰ～Ⅲチームが一同に集い、「真に求められるプロフェッショナリズムを共有しよう」のワークが行われた。ワークでは、それぞれのチームの代表者が、総合討論で最終決定された行動宣言、行動内容について発表したため、そのことを報告する。

どのチームにおいても共通していたことは、行動宣言の対象が日本に住むすべての人であり、そのために行動できる薬剤師を目指すというものであったということだ。そのための行動内容にはチームの特徴が表れており、命、責任の自覚といった倫理的行動やニーズや気持ちをくみ取るといった行動、意見を言うことを恐れないなど、様々な方向から焦点を当てた行動内容が発表されていた。それぞれの代表者の発表の後にはチームメンバーが発表内容についての補足や伝えたいことを自由に言う場面もあり、チームにおける議論の活発さが垣間見えるセッションⅡであった。

最後に、この二日間のWSで、常に議論の中心となってきた、10～20年後機械化が進んでいった時に薬剤師ができることは何か、このことについて卒業生やタスクフォースの方が話していたことを箇条書きで報告する。

- ・機械化が進んでいくことで、他の業務（薬剤師、人にしかできないこと）に割く時間が増える

- ・患者さんの気持ちを理解、気持ちに寄り添うことができるのは人にしかできない
- ・ロボットの機械化の導入は、慎重に進められるべきであり、現場の意見が大事である
- ・薬剤師の熱意は、10～20年後であっても変わっていかない
- ・経験則に基づく行動がとれることは人であることの強みである

以上で、ワークショップ第三部を終了する。